

日本電子（株）
スモール・グループ・ミーティング

JEOL

(Japan Electron Optics Laboratory)



平成13年 6月22日

Contents

平成13年 3月期決算の概要と今後の業績予想

常務取締役 田中 政博

今後の経営戦略

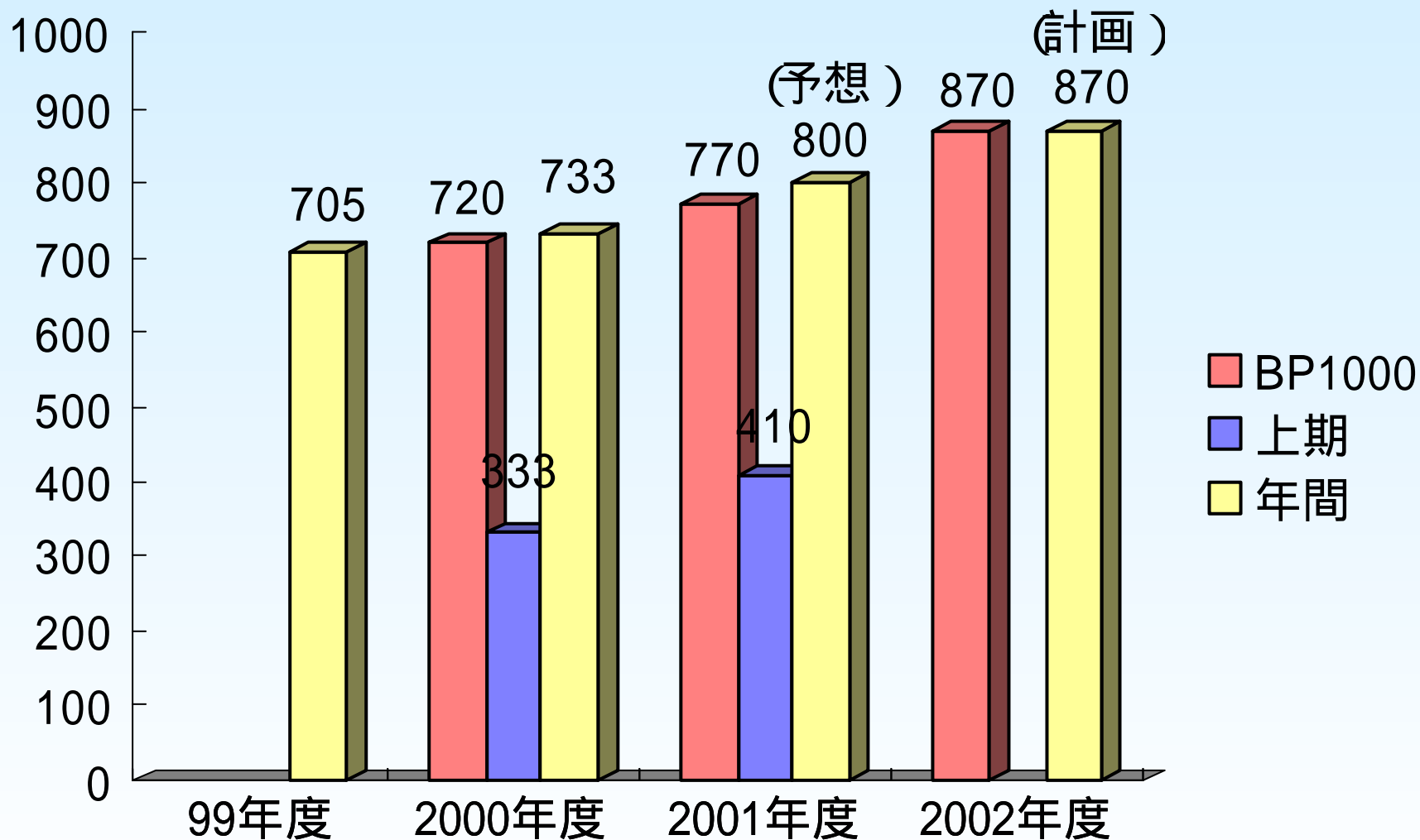
取締役社長 江藤 輝一

平成13年 3月期決算概要と 今後の業績予想

常務取締役 田中 政博

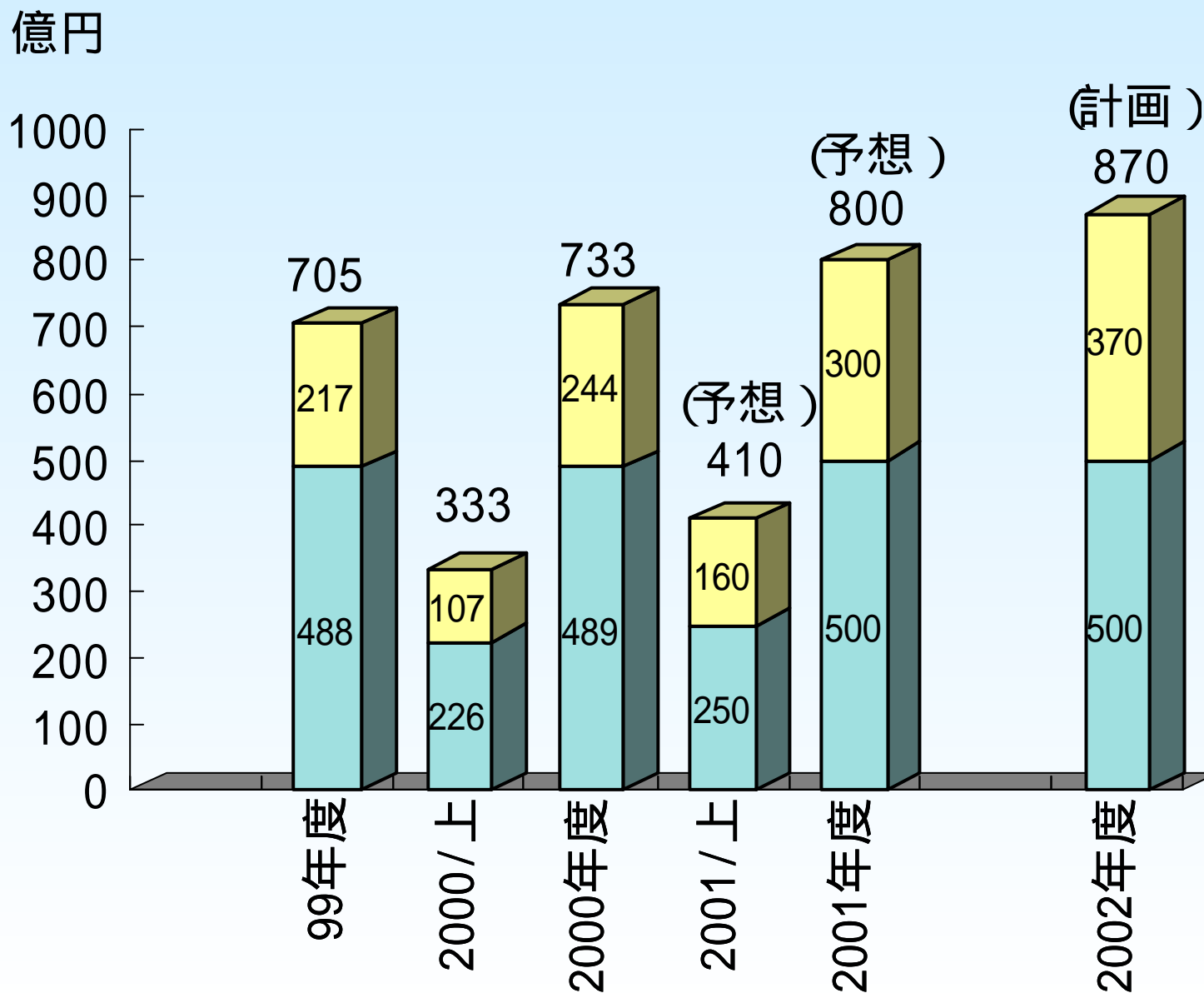
売上高 (連結)

億円

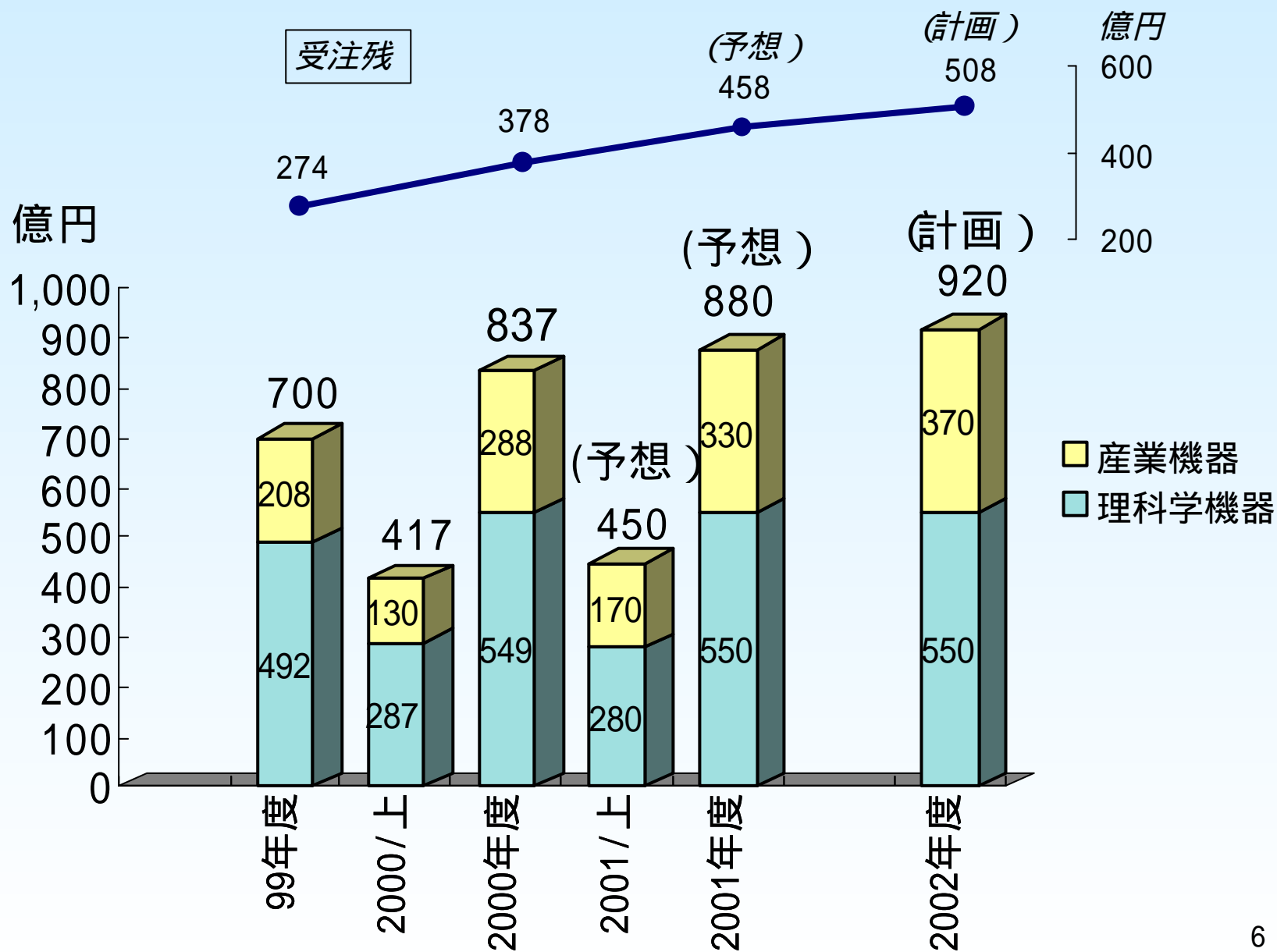


事業の種類別売上高 (連結)

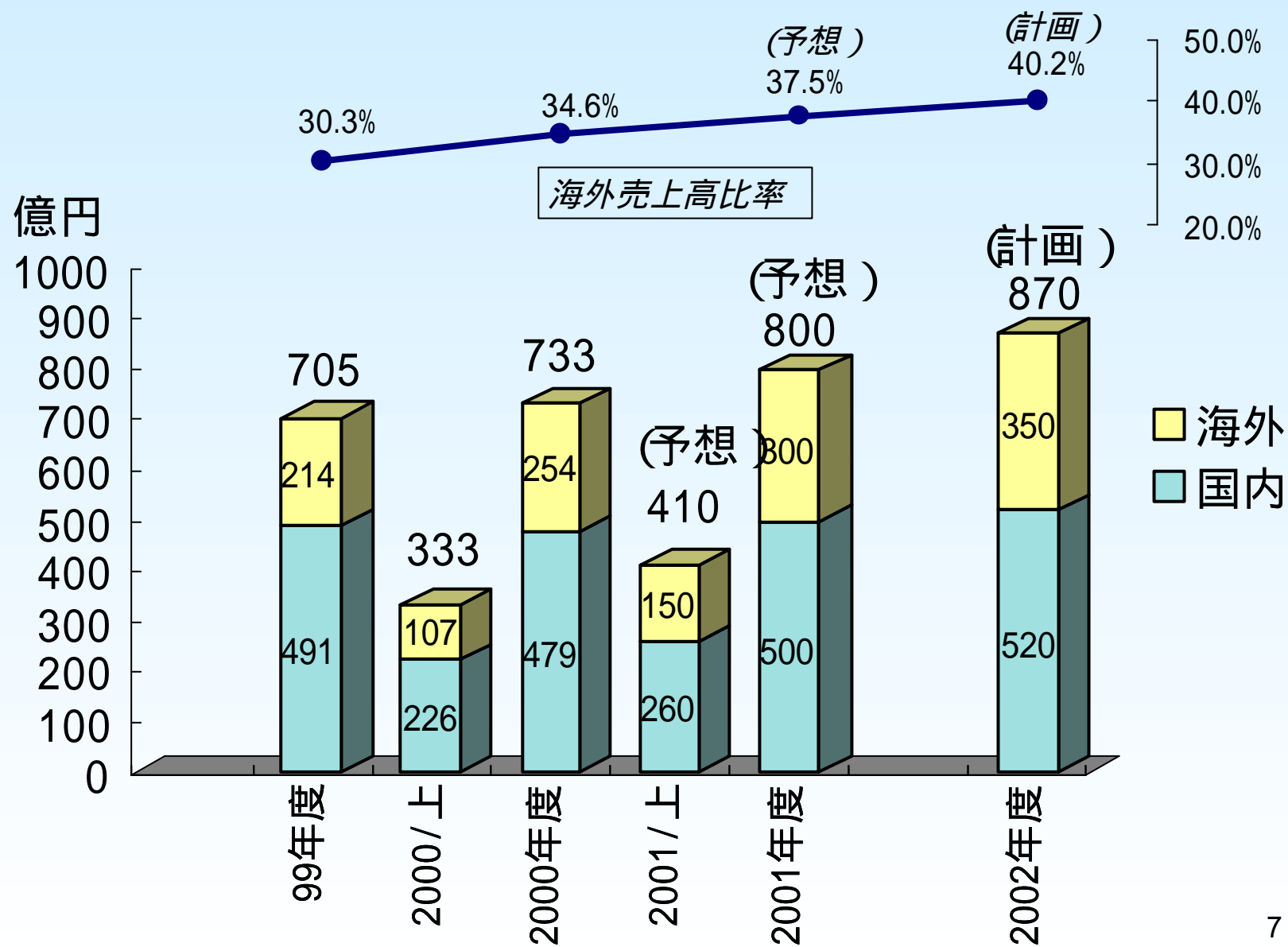
■ 産業機器
■ 理科学機器



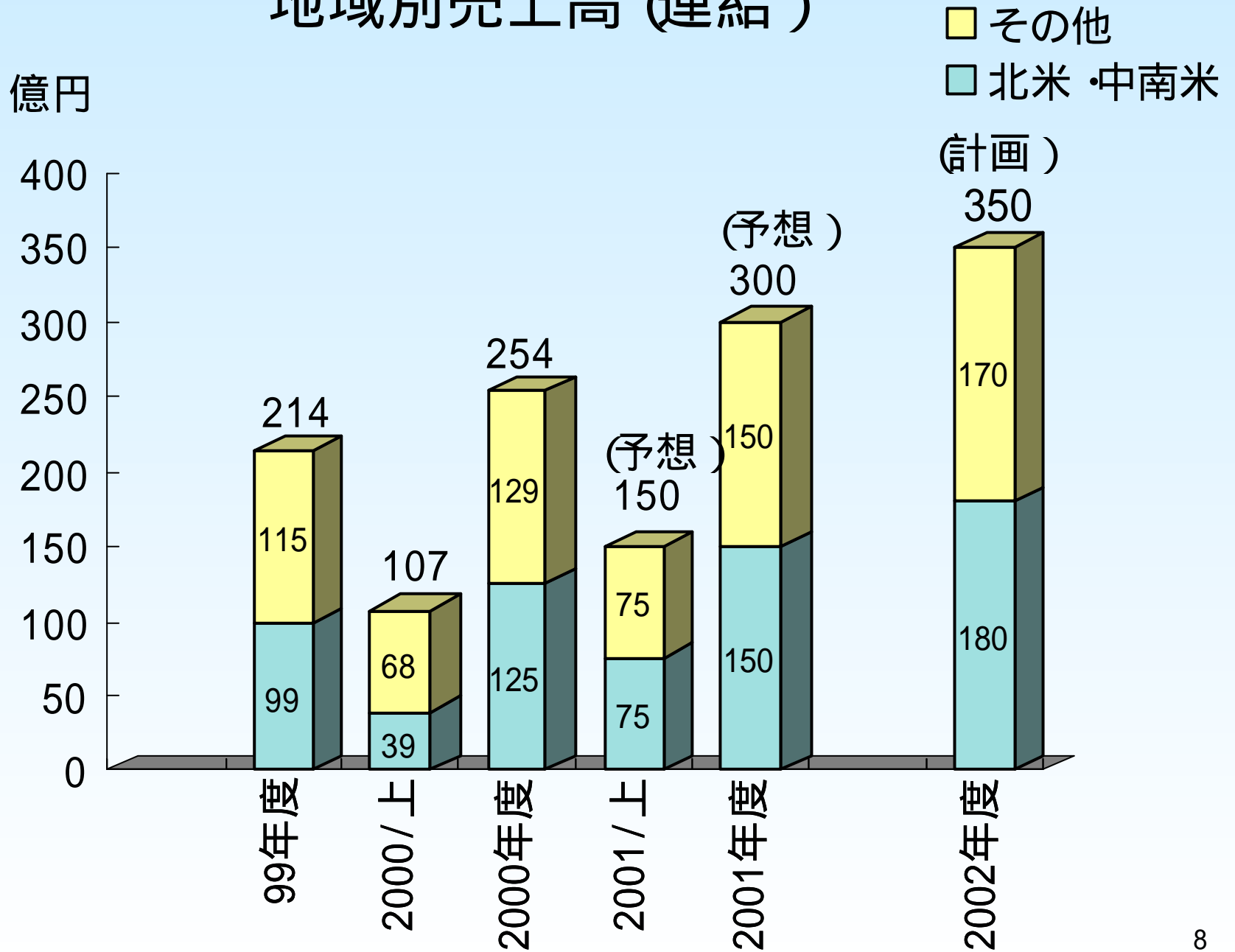
事業の種類別受注高と受注残 (連結)



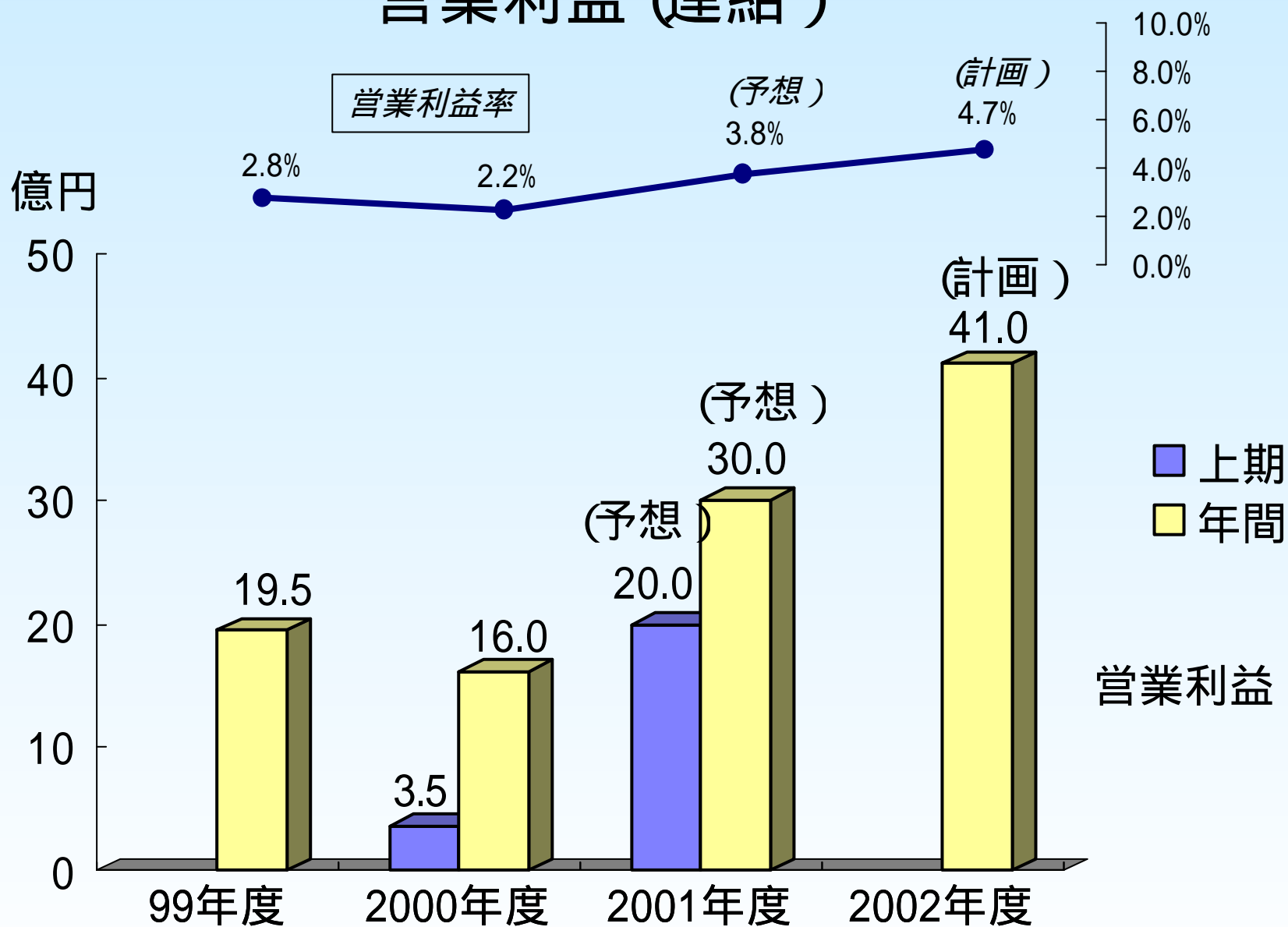
海外売上高と海外売上高比率 (連結)



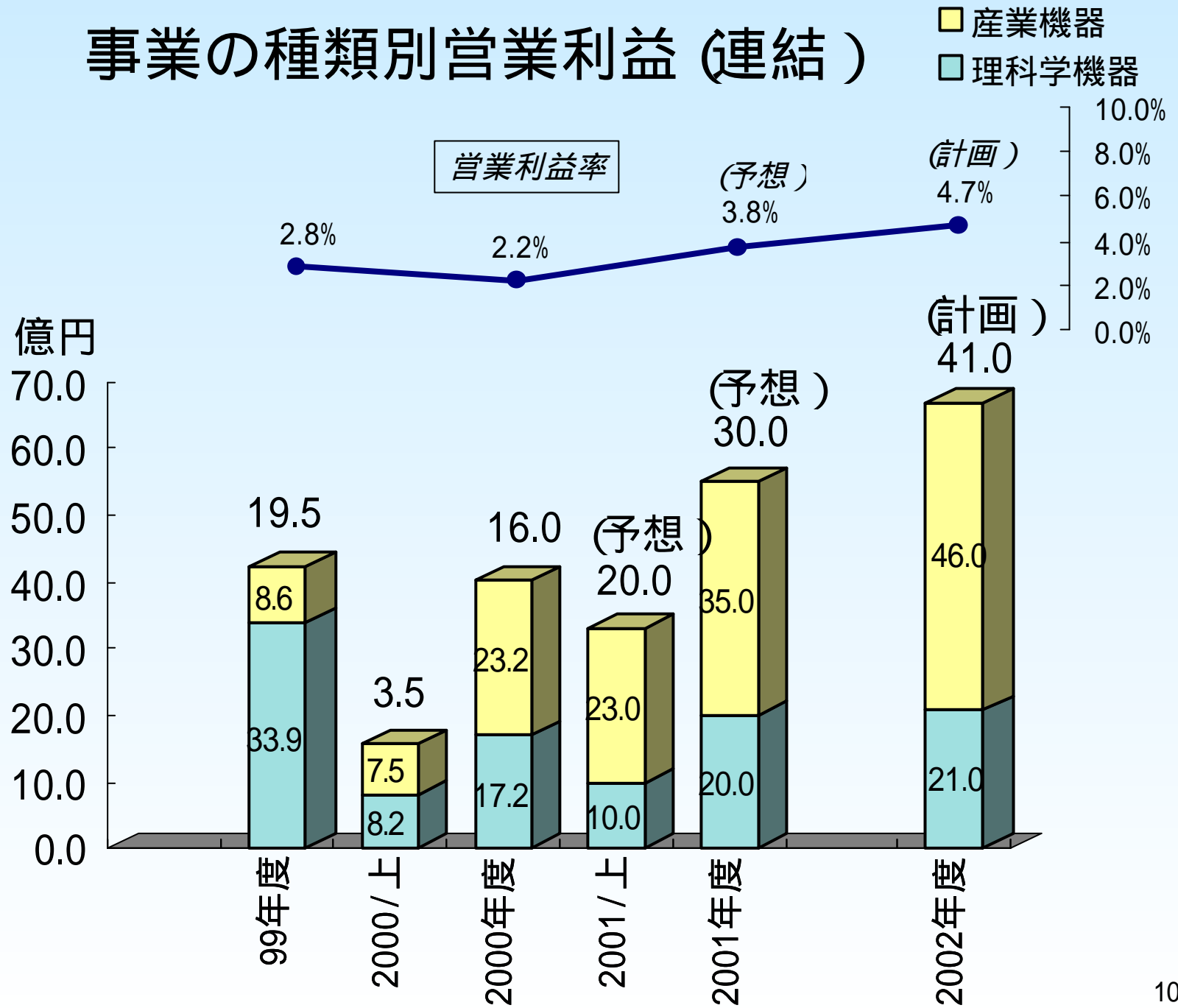
地域別売上高 (連結)



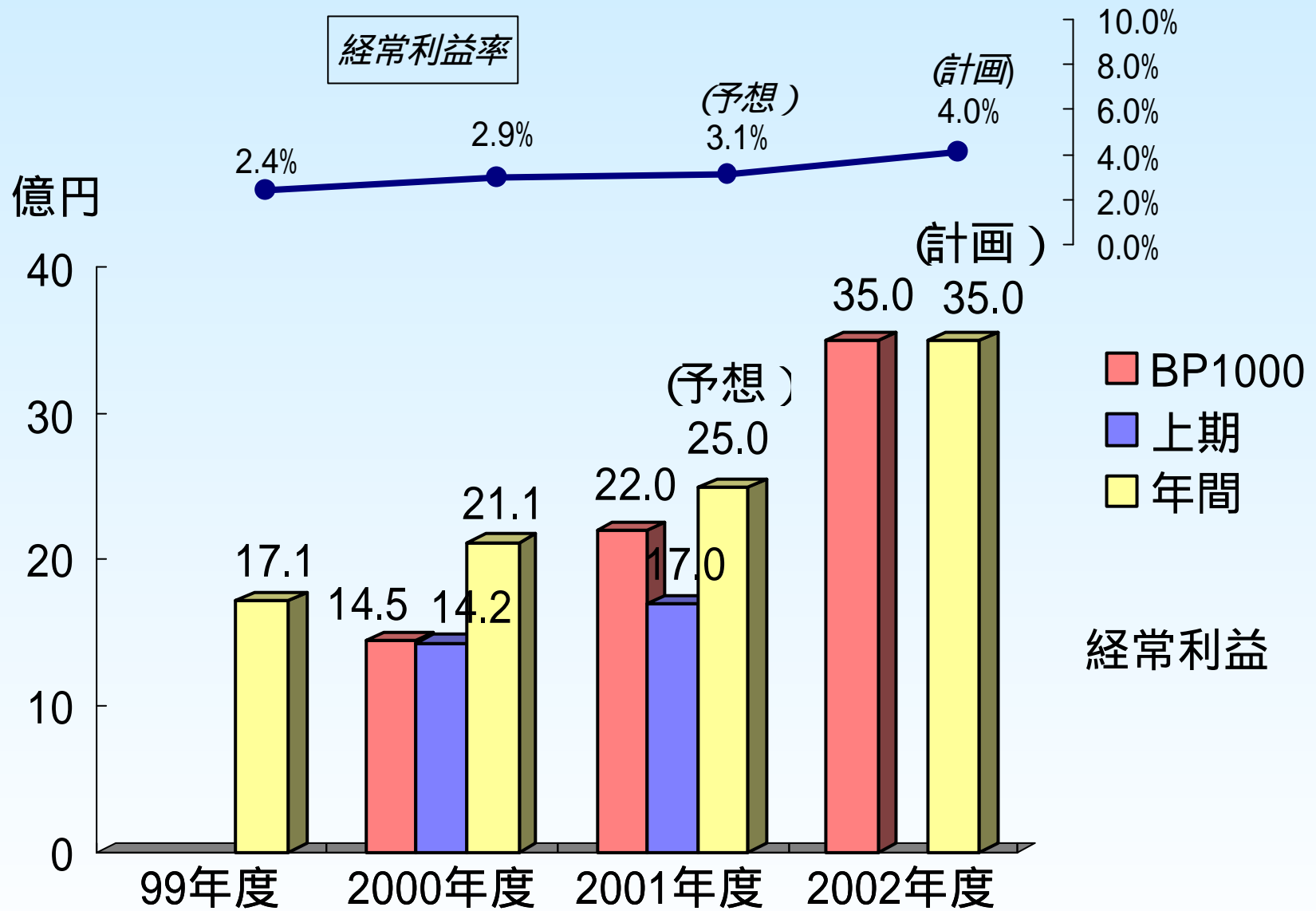
営業利益 (連結)



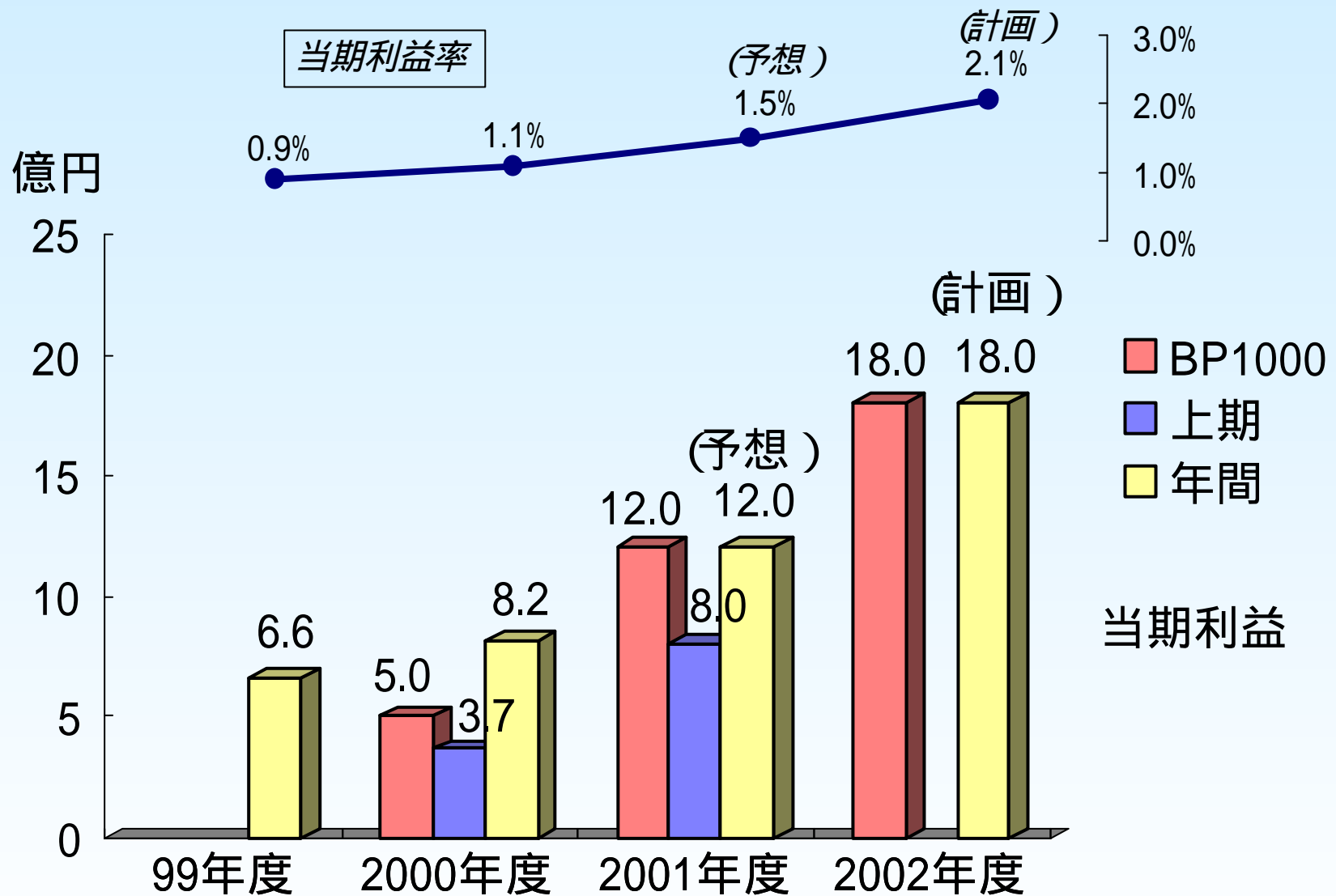
事業の種類別営業利益 (連結)



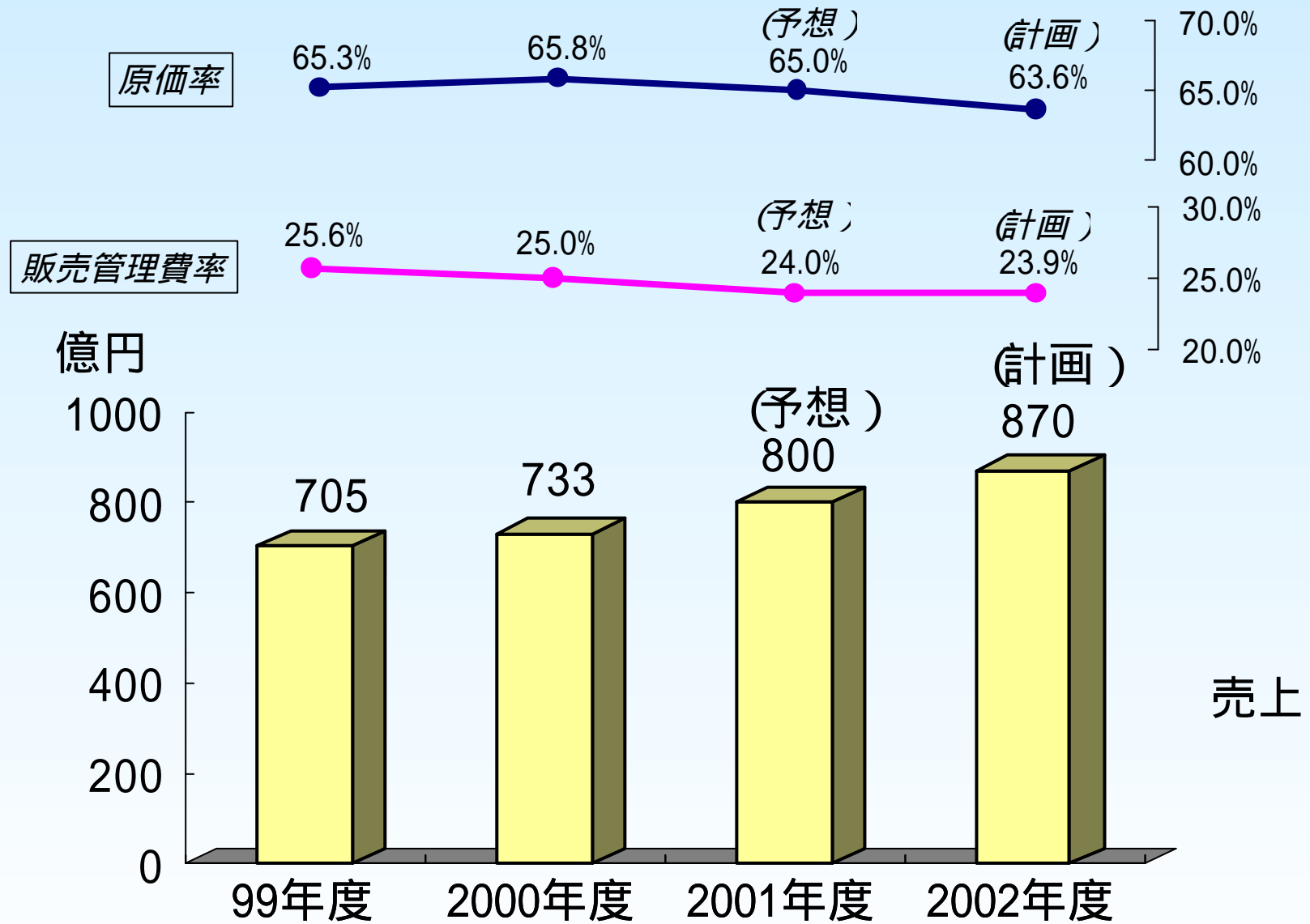
經常利益 (連結)



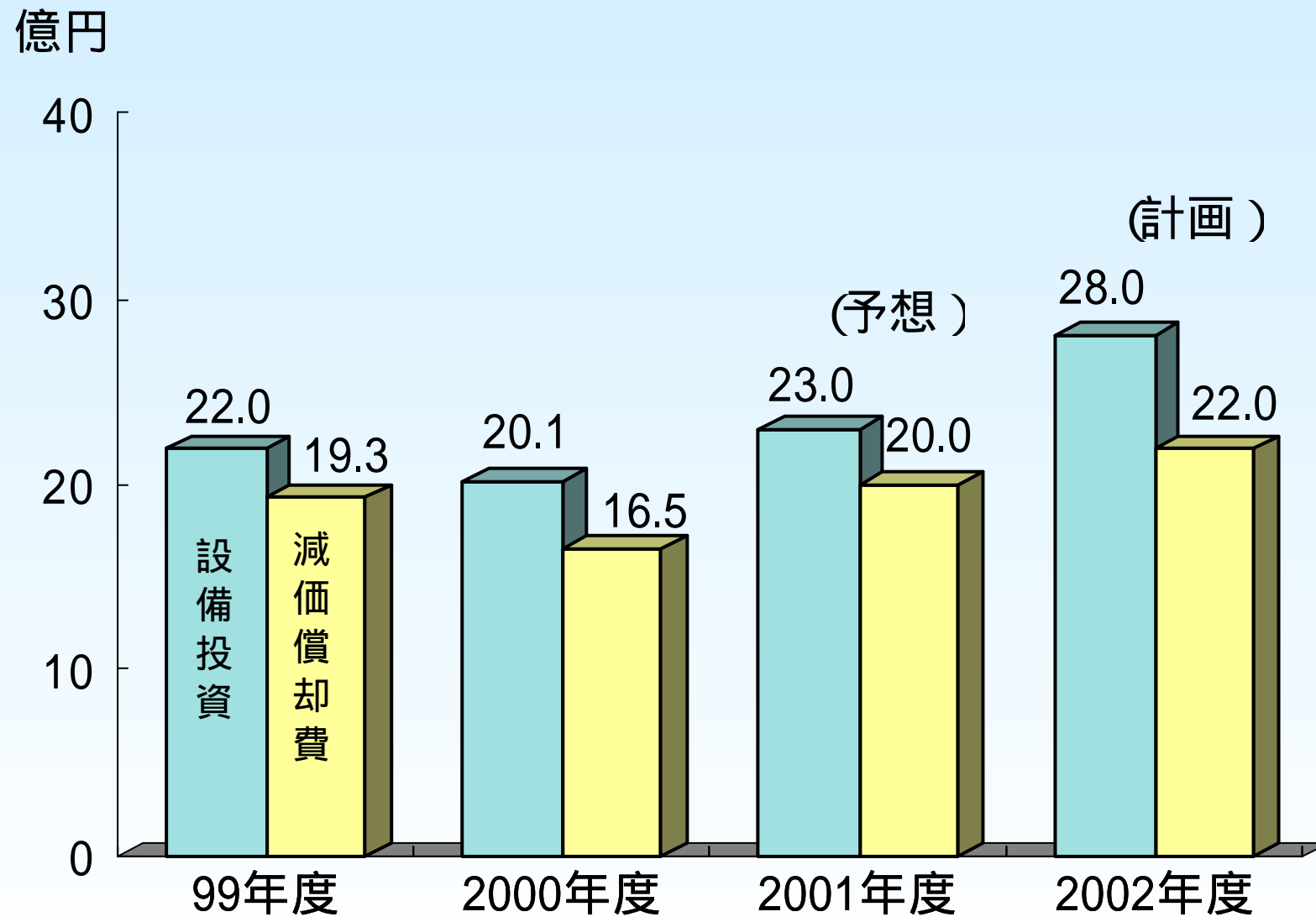
当期利益 (連結)



原価率と販管費率 (連結)



設備投資と減価償却費 (連結)

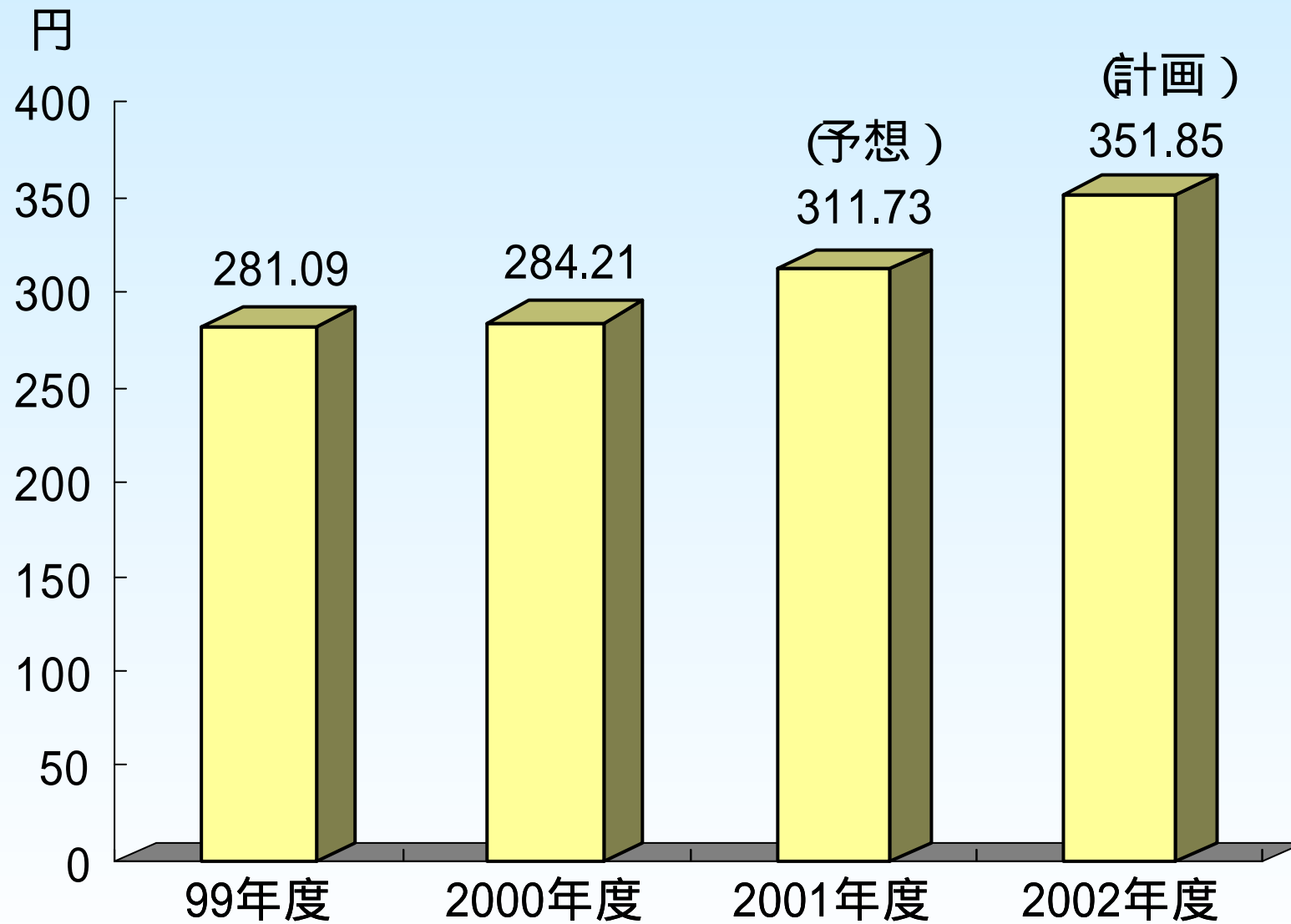


貸借対照表 (連結)

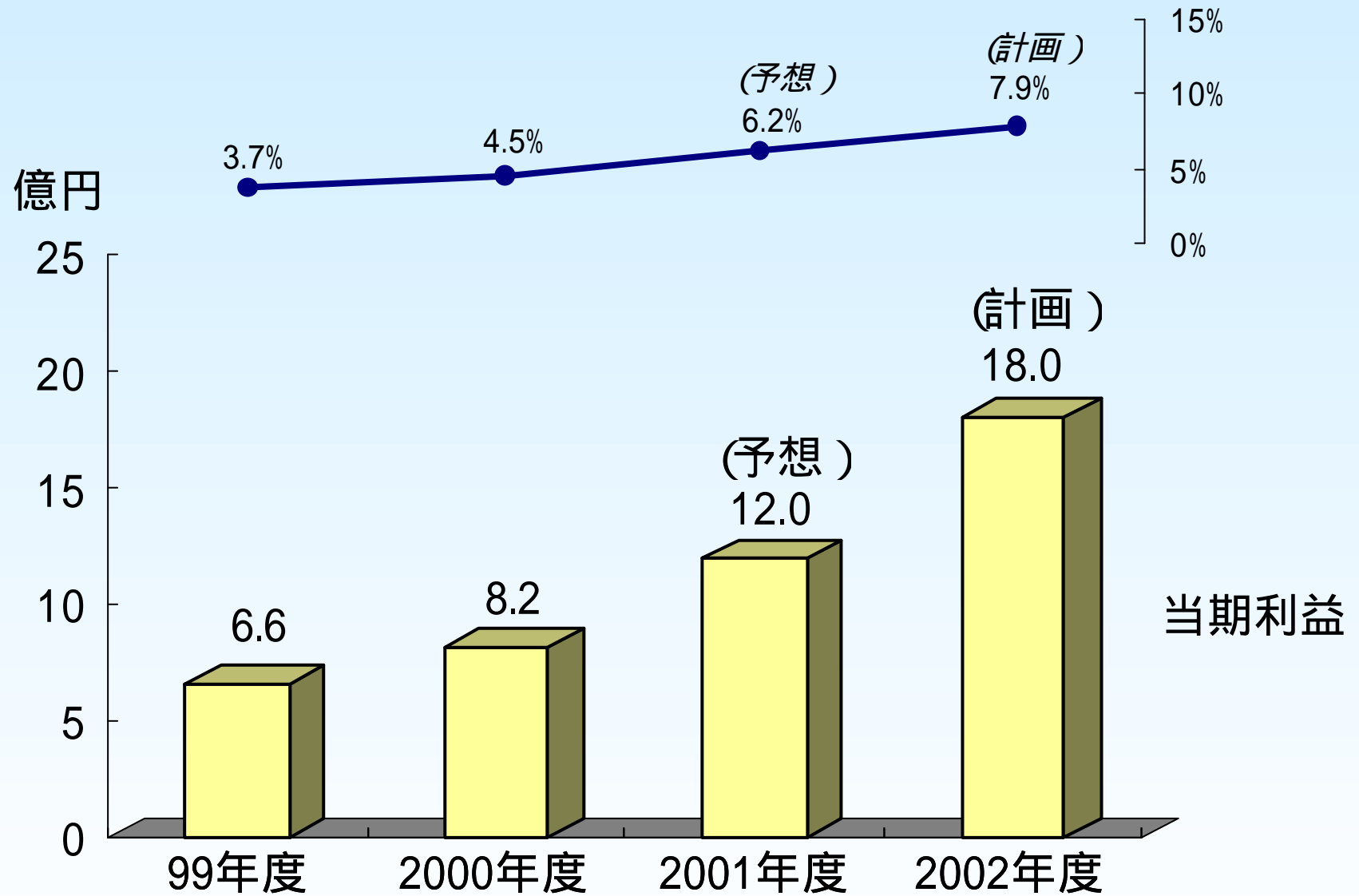
単位 : 億円

	2000年3月	2001年3月	2002年3月	2003年3月
流動資産	549	670	583	531
内売掛債権	227	267	234	221
内棚卸資産	214	266	200	170
固定資産	159	176	199	209
総資産	724	846	782	760
流動負債	457	565	473	432
固定負債	83	96	105	98
株主資本	182	184	202	228
株主資本比率	25.2%	21.8%	25.8%	30.0%

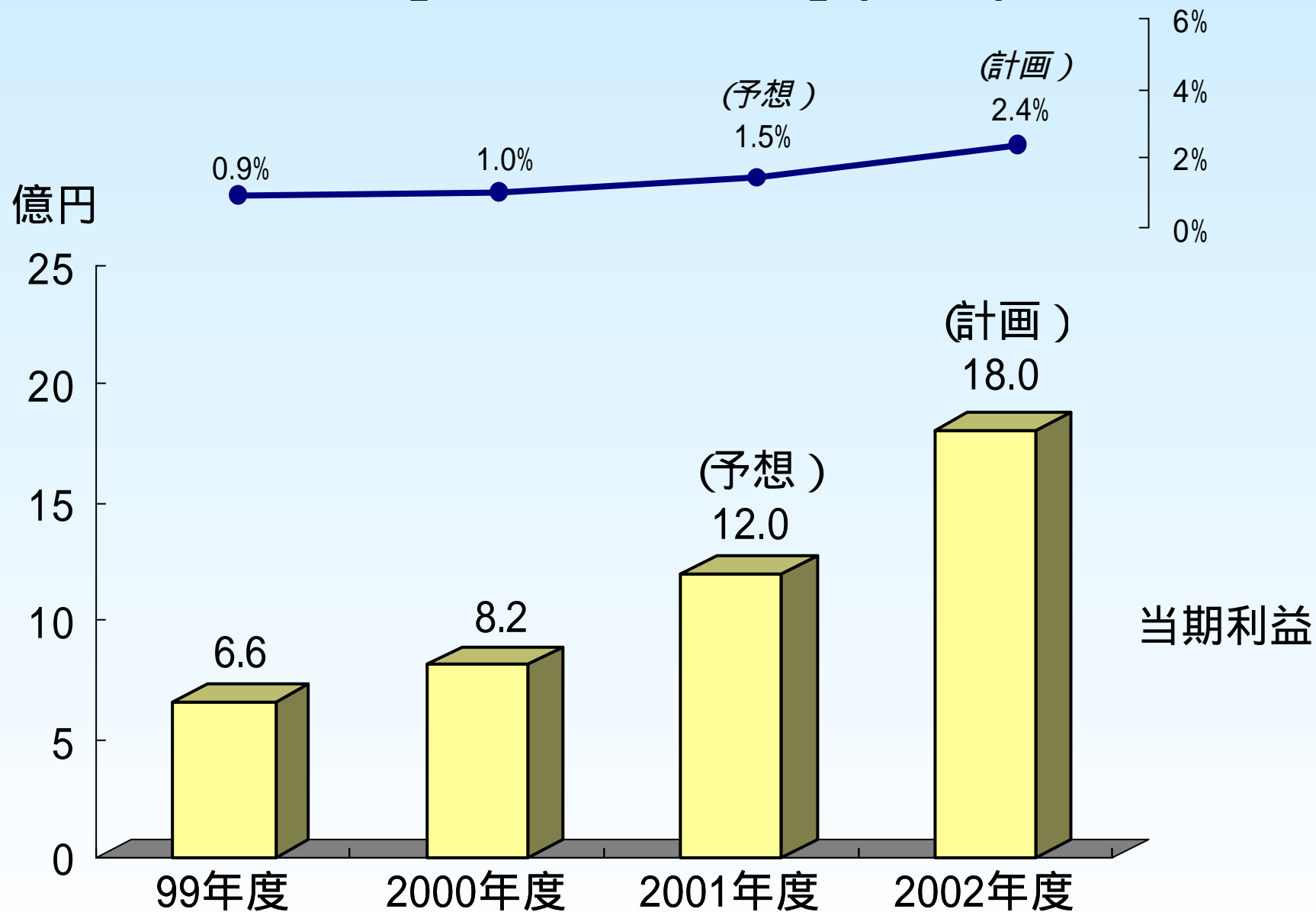
1株当たり株主資本 (連結)



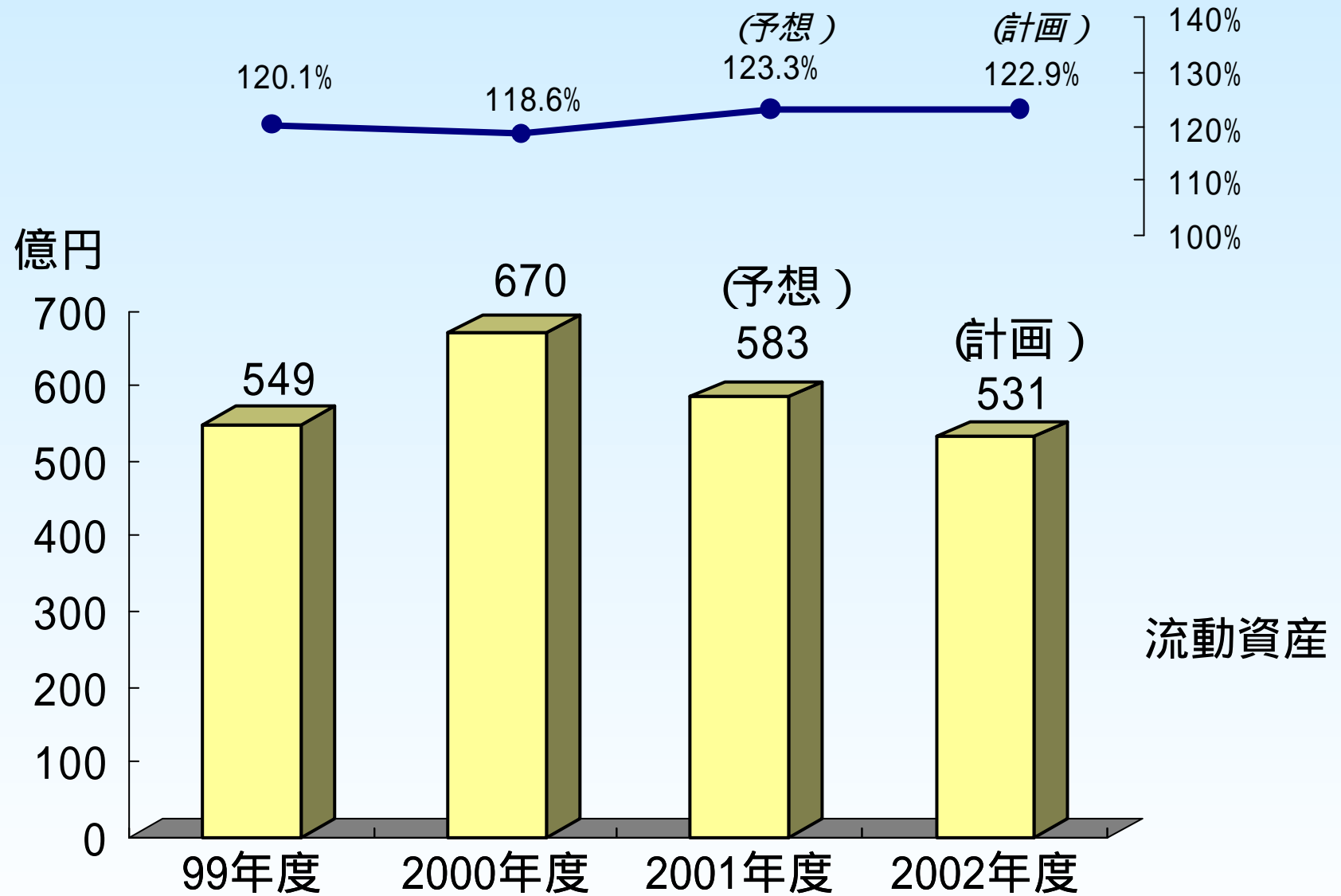
ROE [株主資本利益率] (連結)



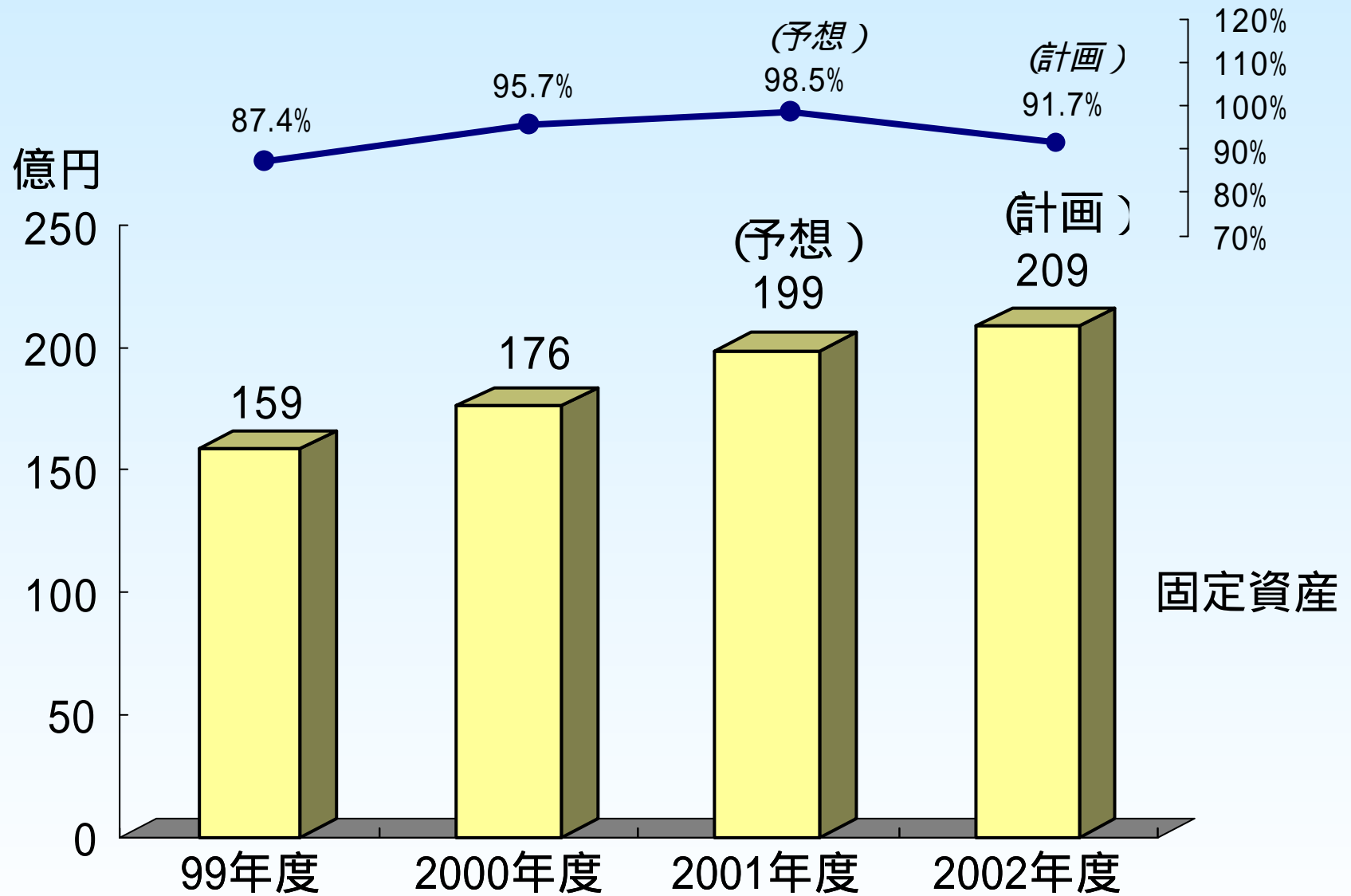
ROA [総資産利益率] (連結)



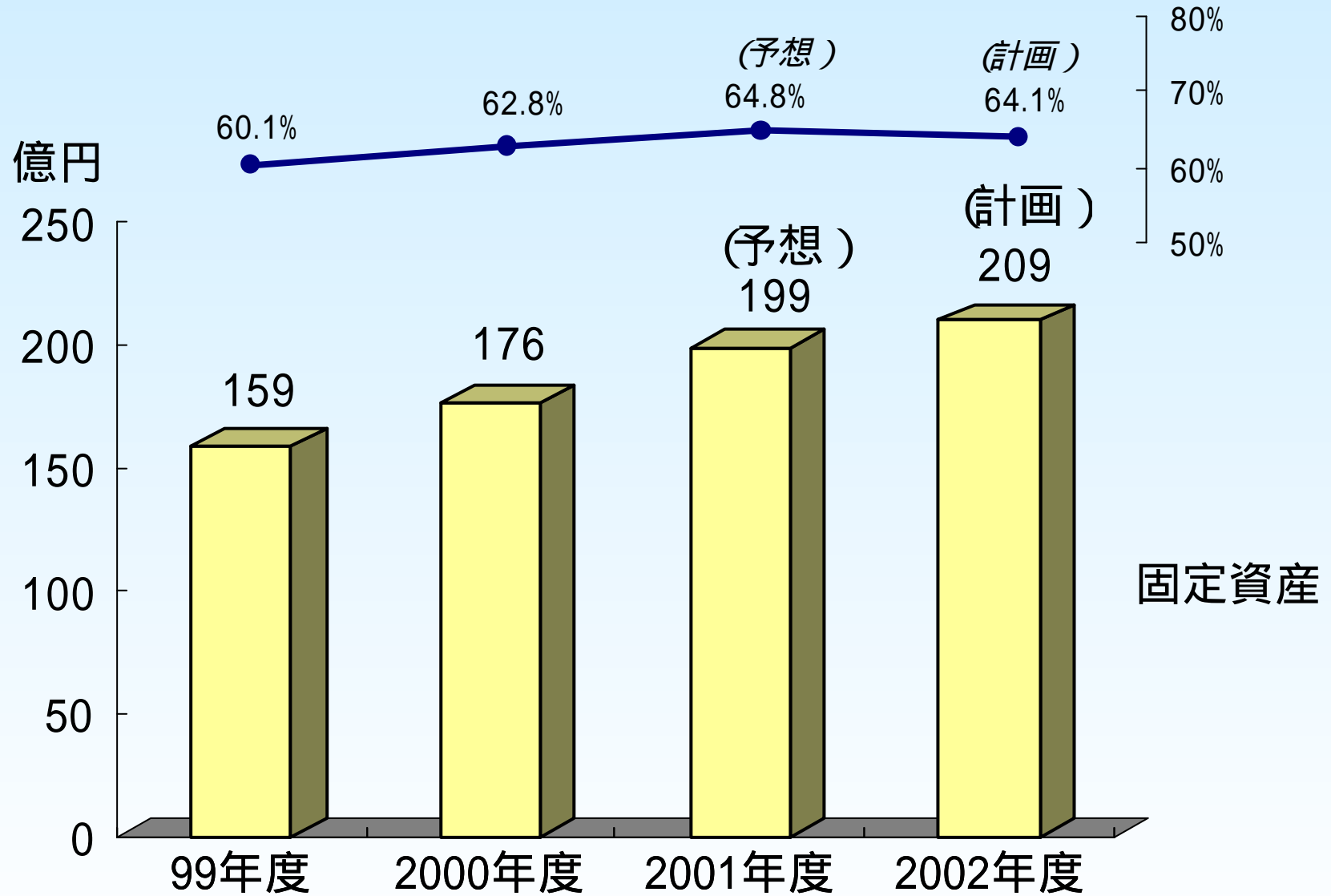
流動比率 (連結)



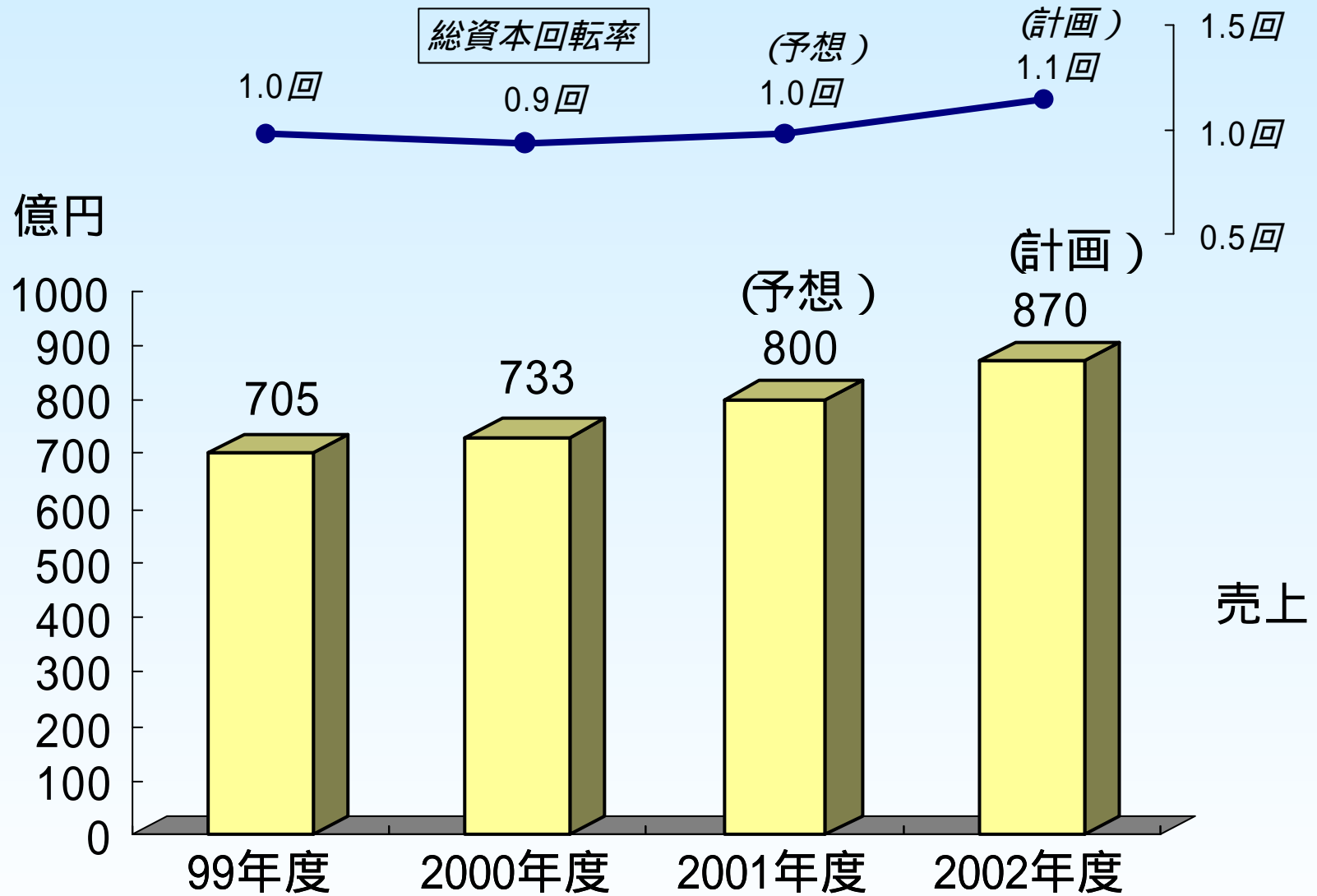
固定比率 (連結)



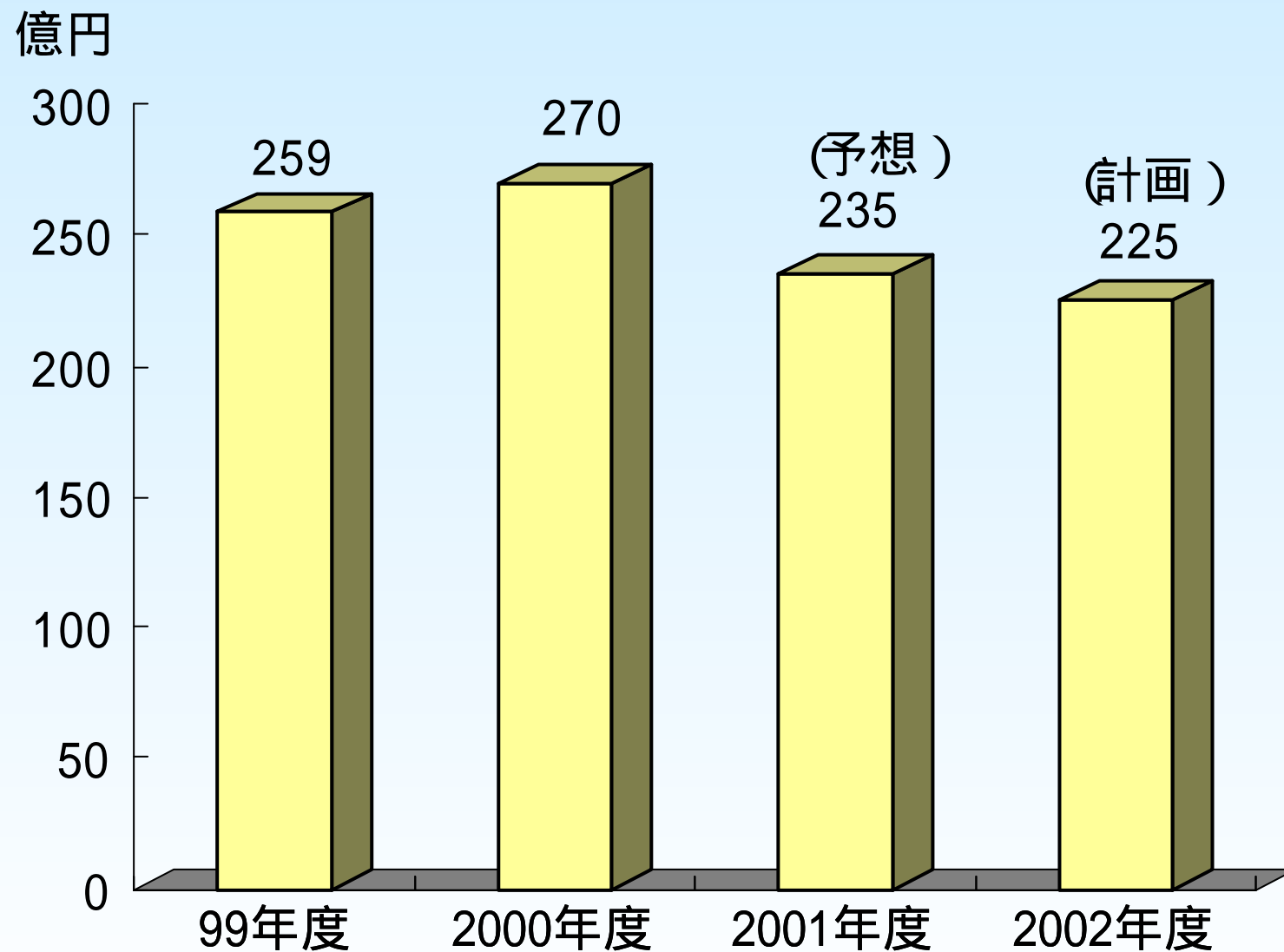
固定長期適合率 (連結)



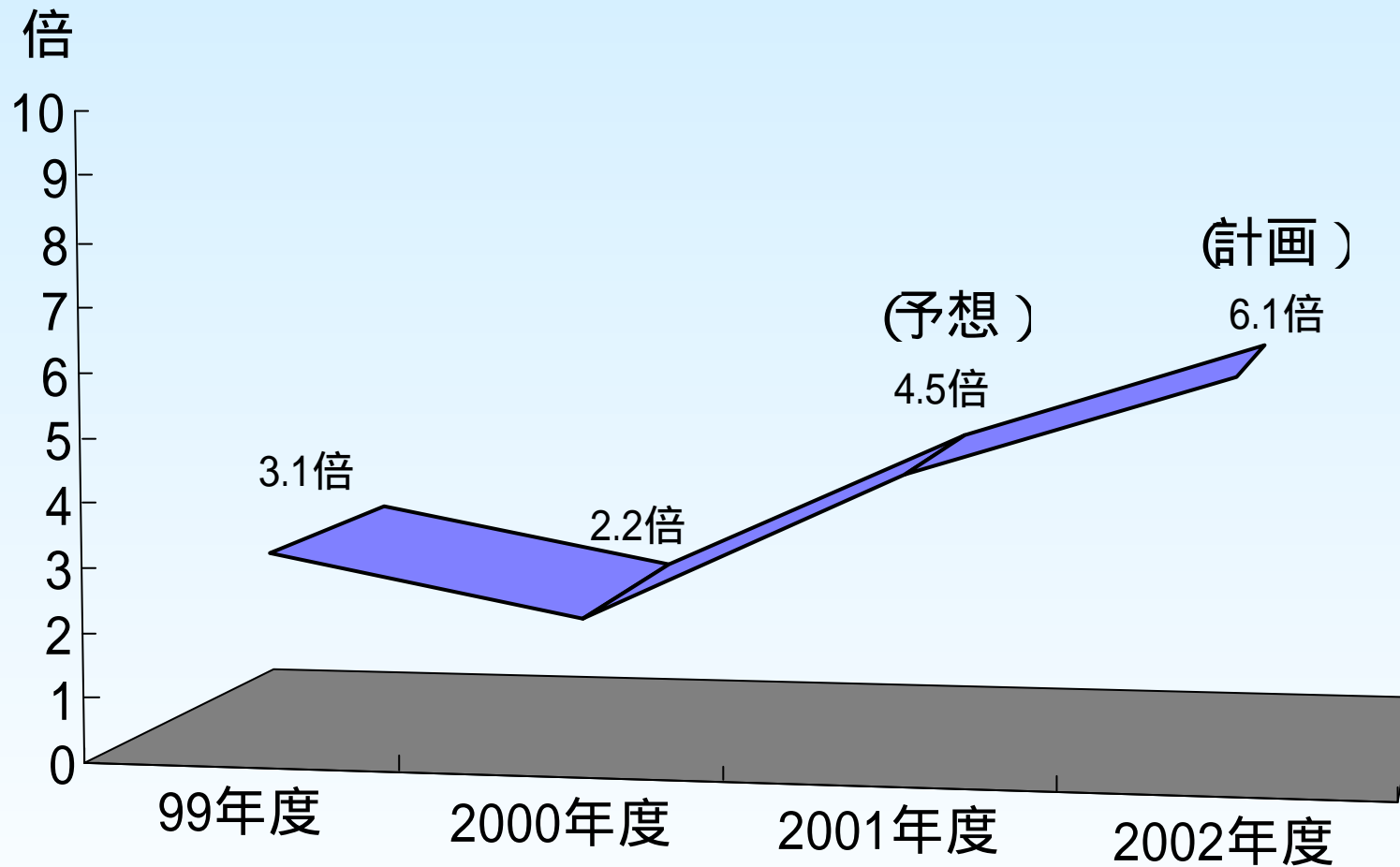
総資本回転率 (連結)



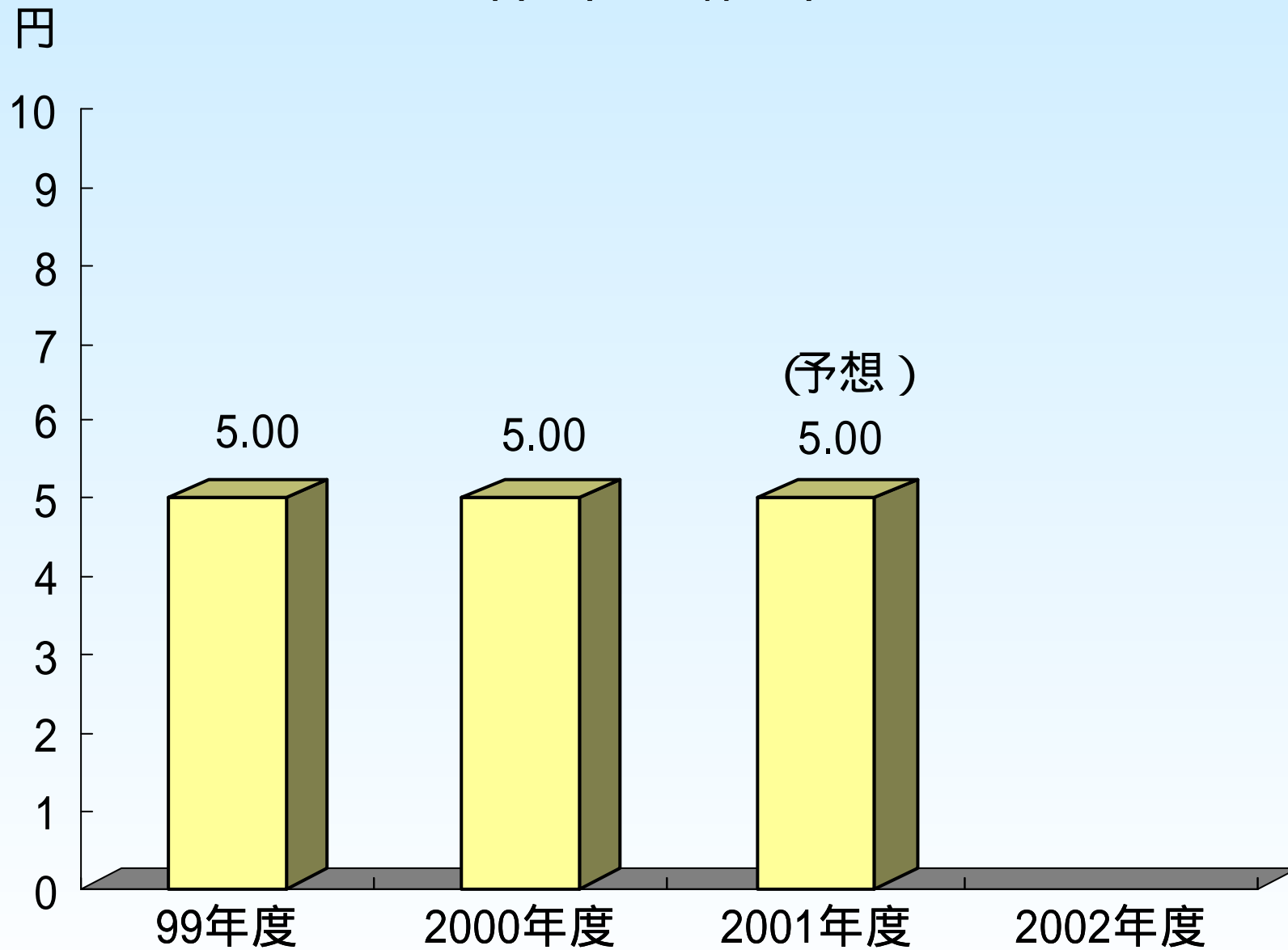
有利子負債 (連結)



インタレスト・カバレッジ・レシオ (連結)

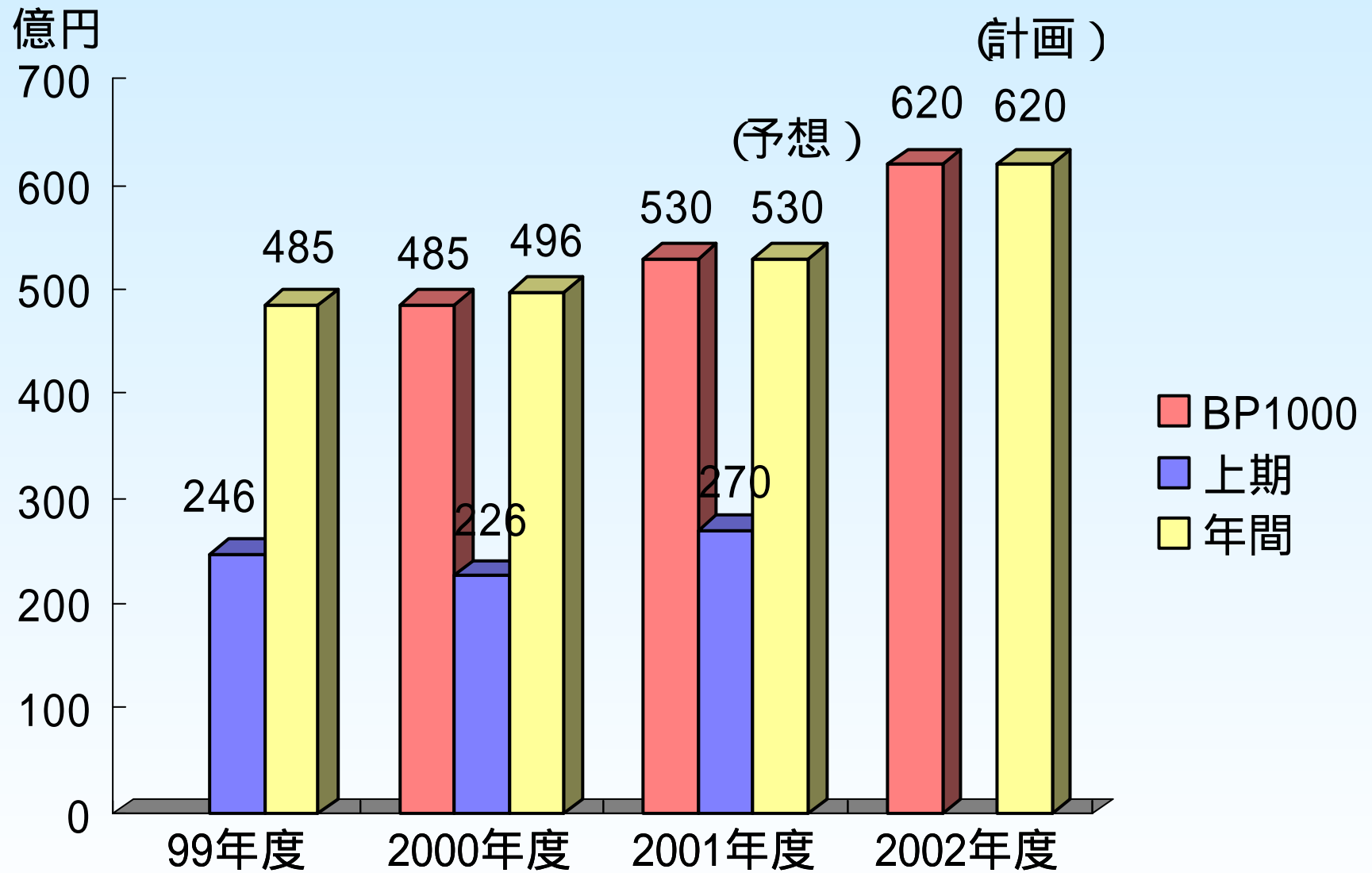


1株当たり配当金

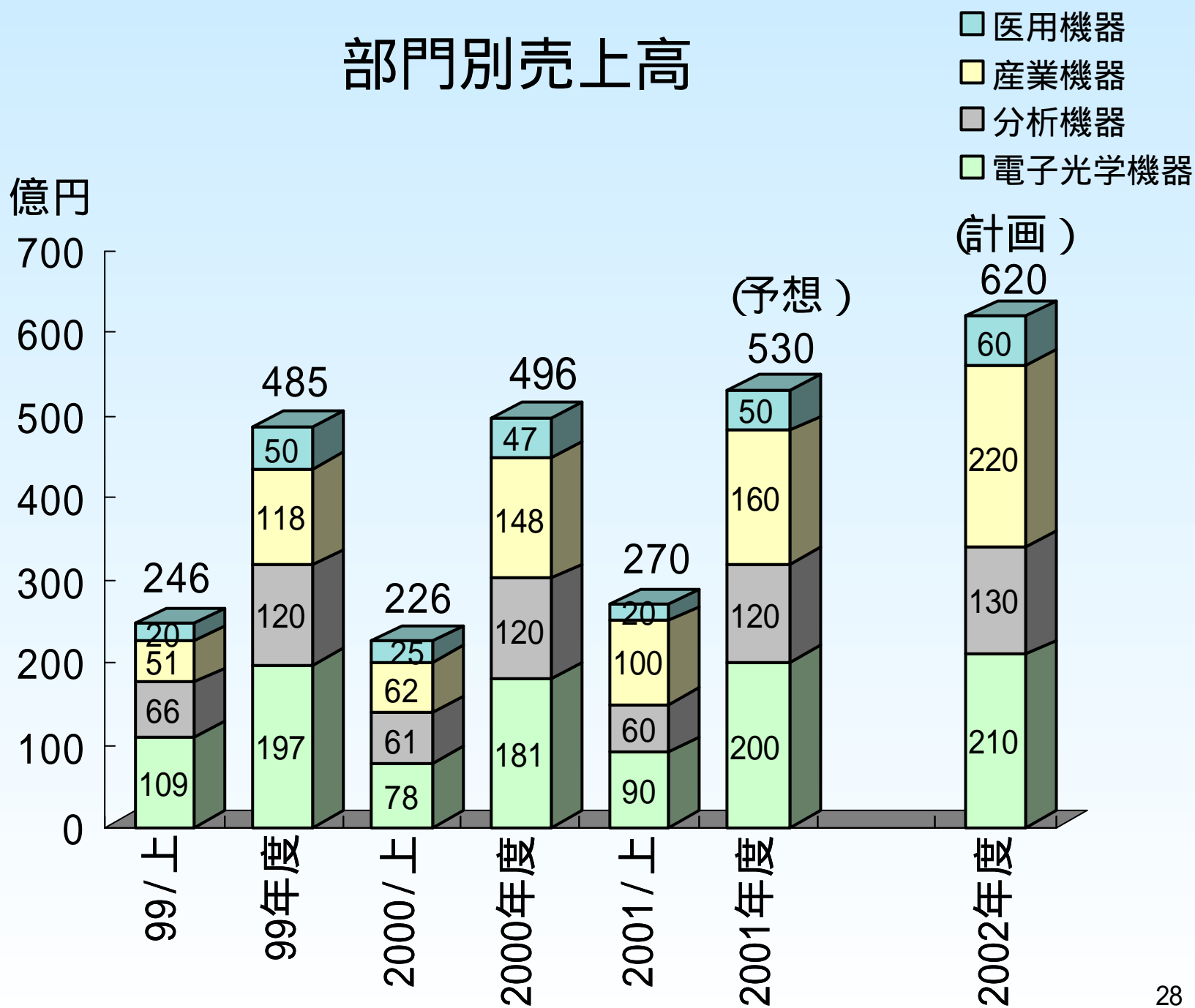


**平成13年 3月期決算概要と
今後の業績予想
(単独)**

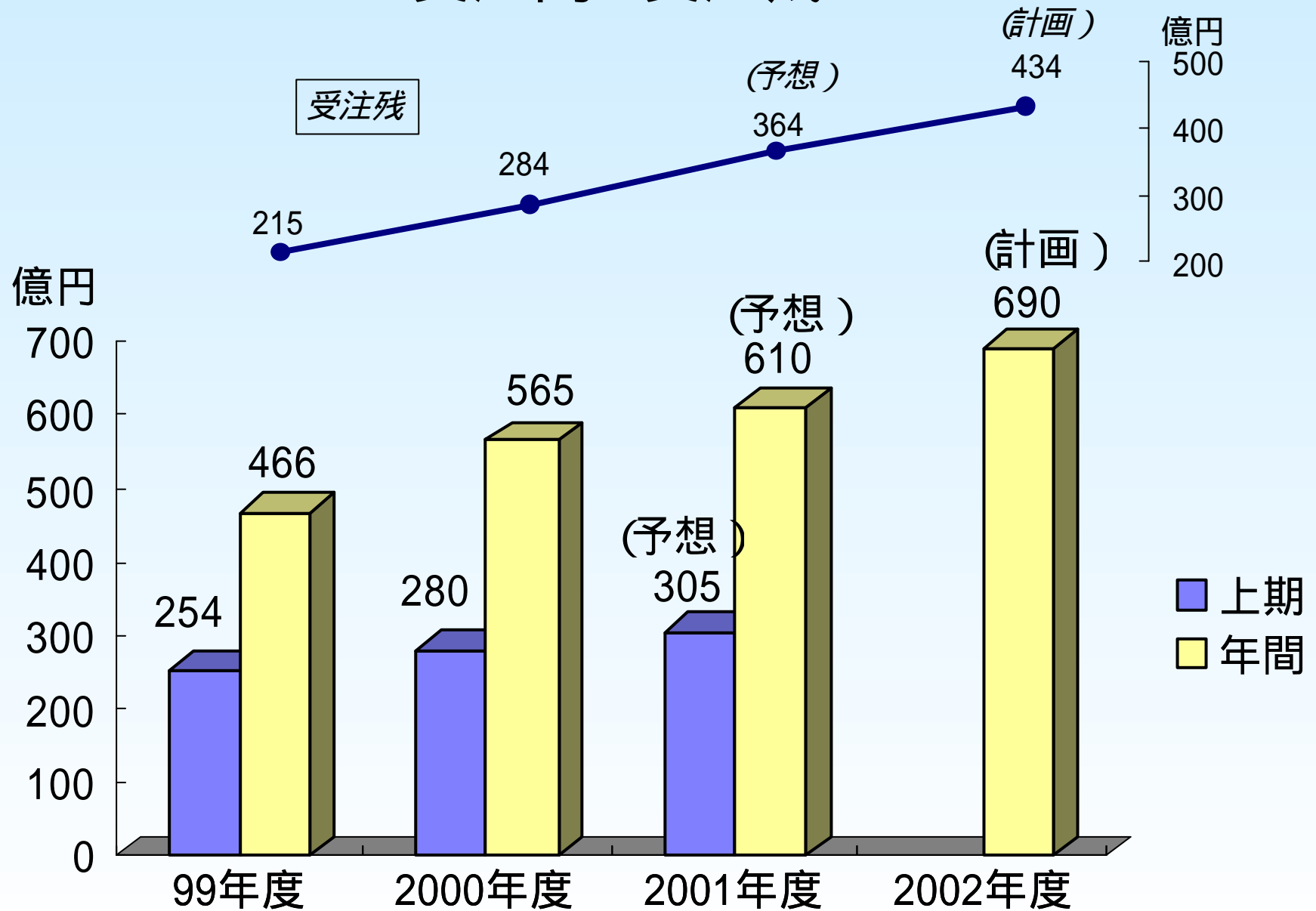
売上高



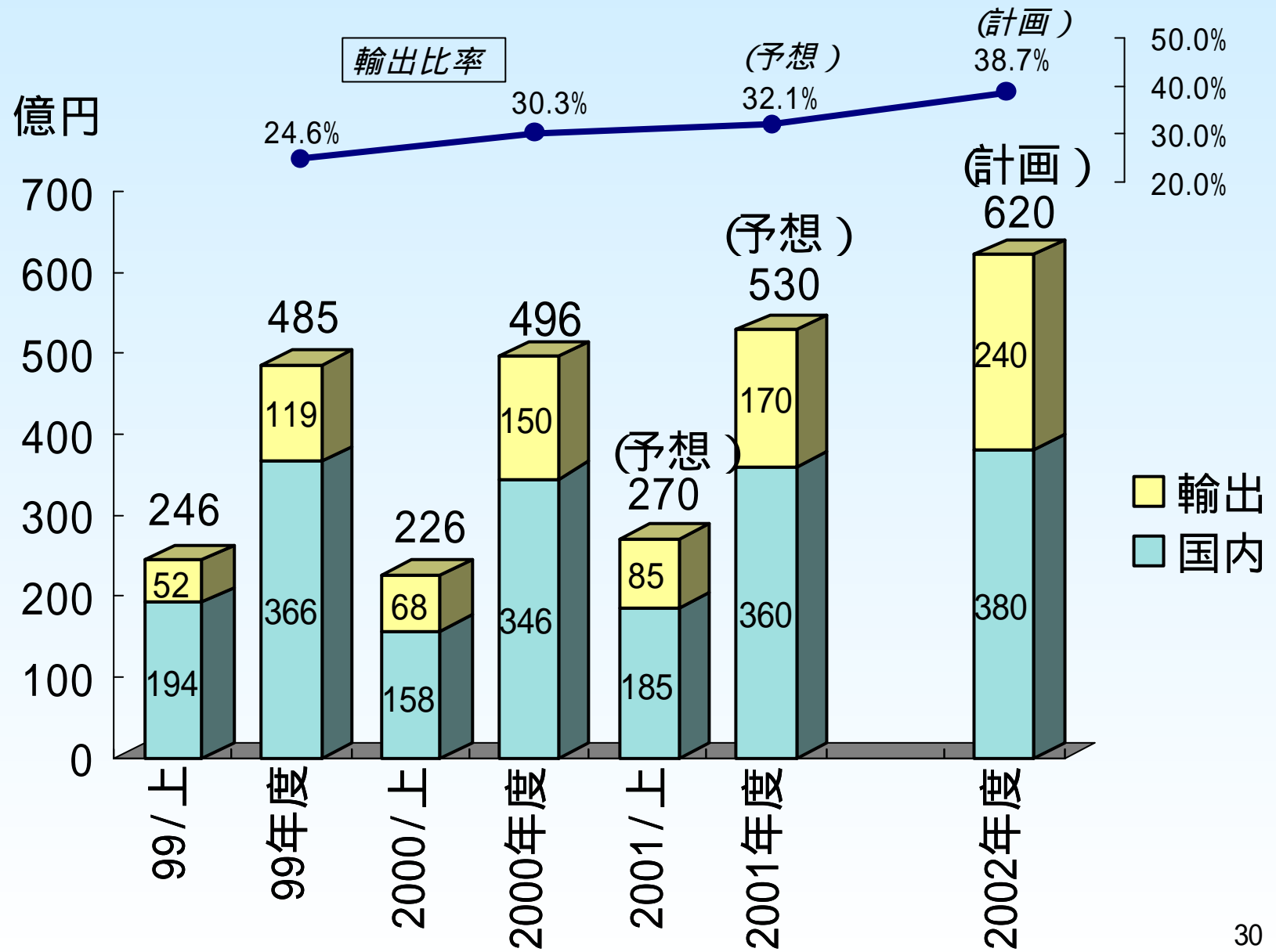
部門別売上高



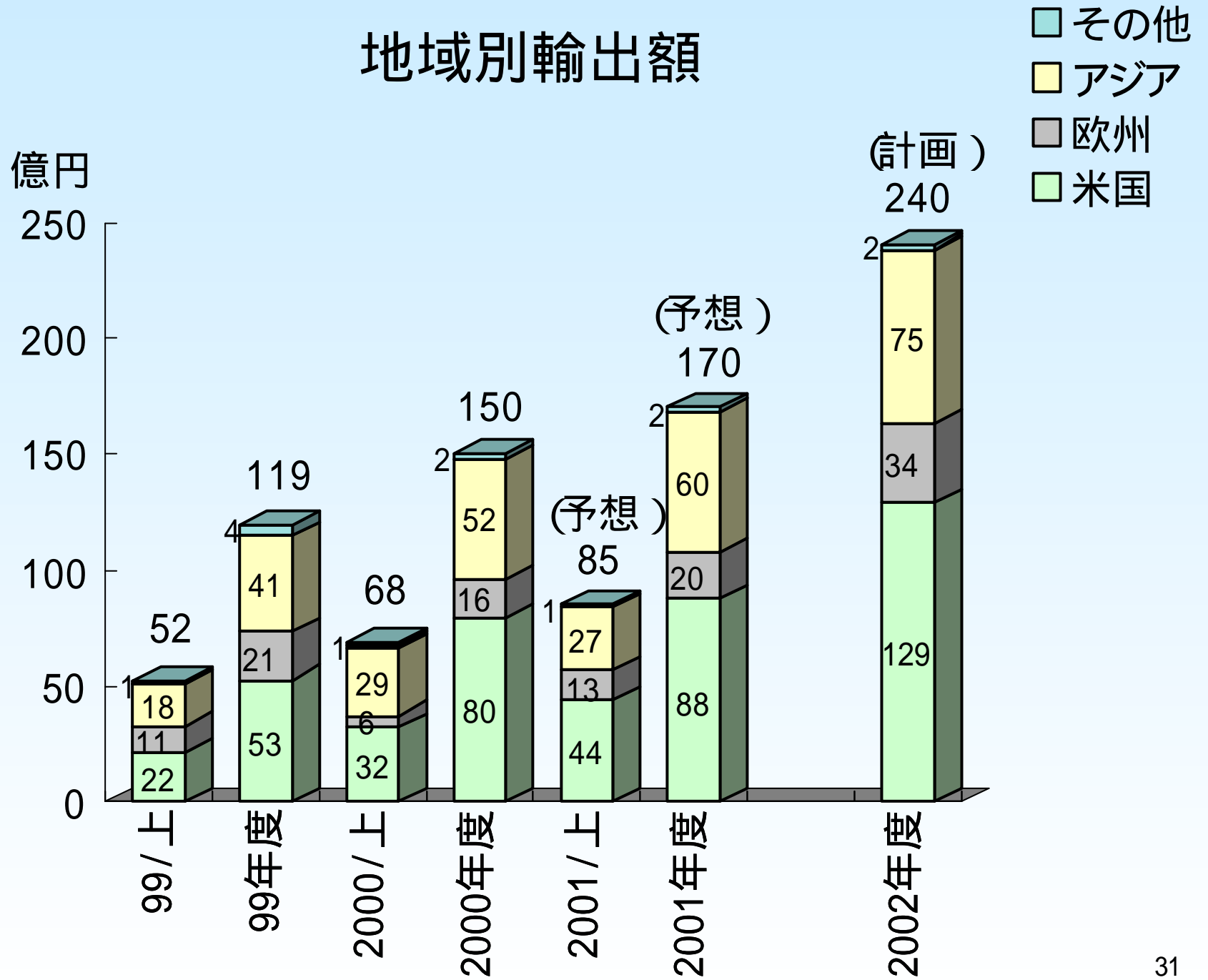
受注高と受注残



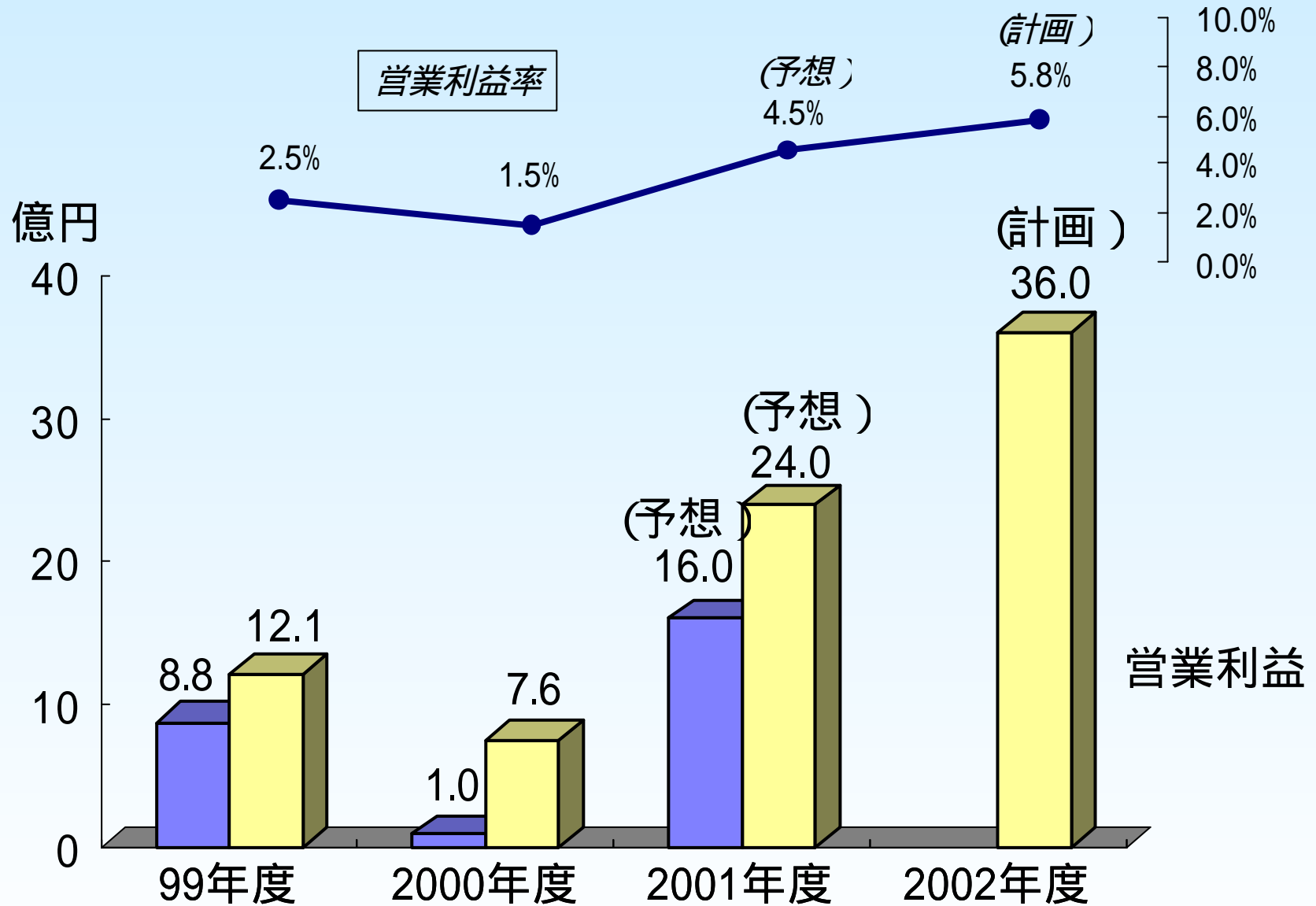
輸出額と輸出比率



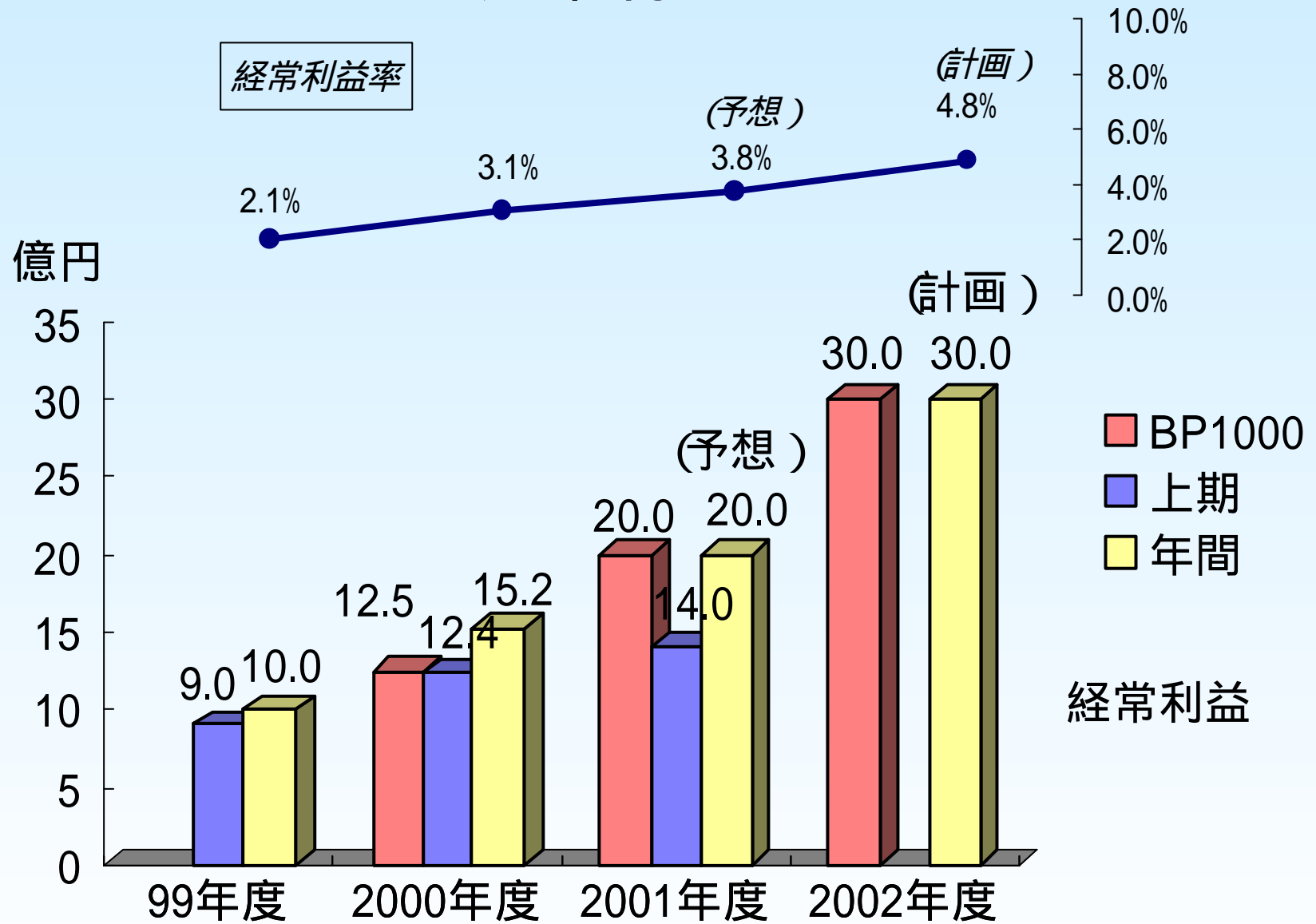
地域別輸出額



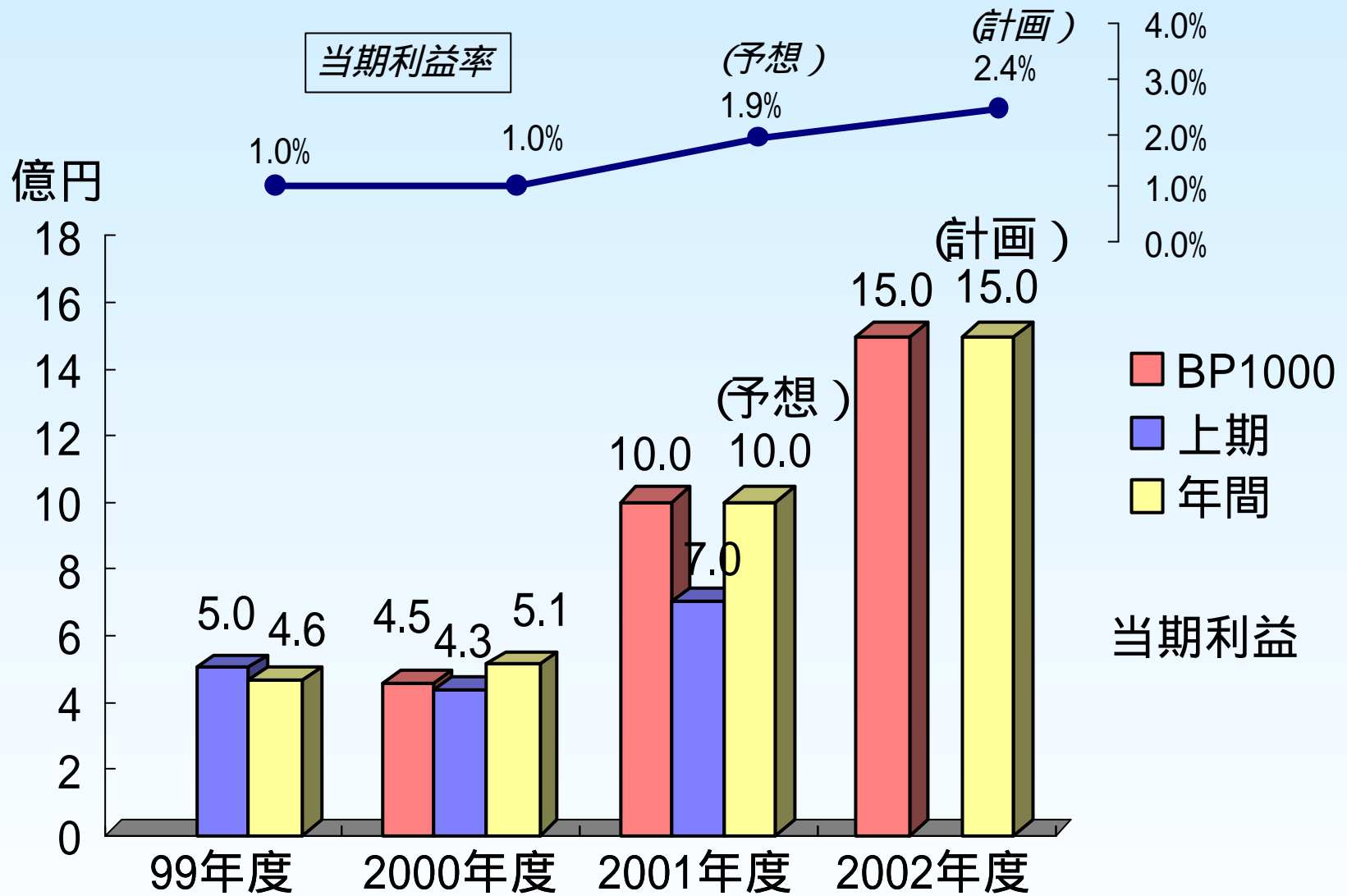
営業利益



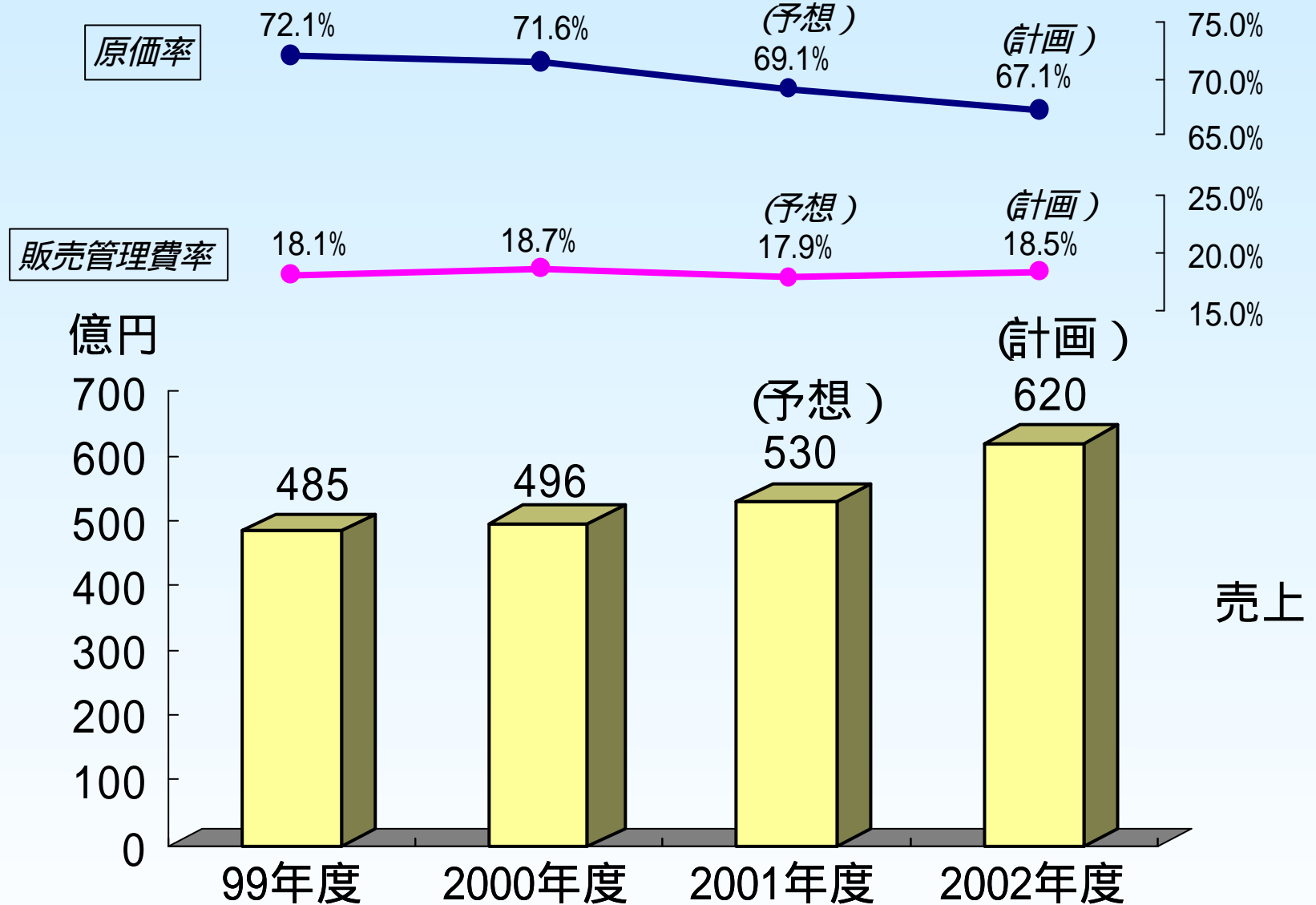
經常利益



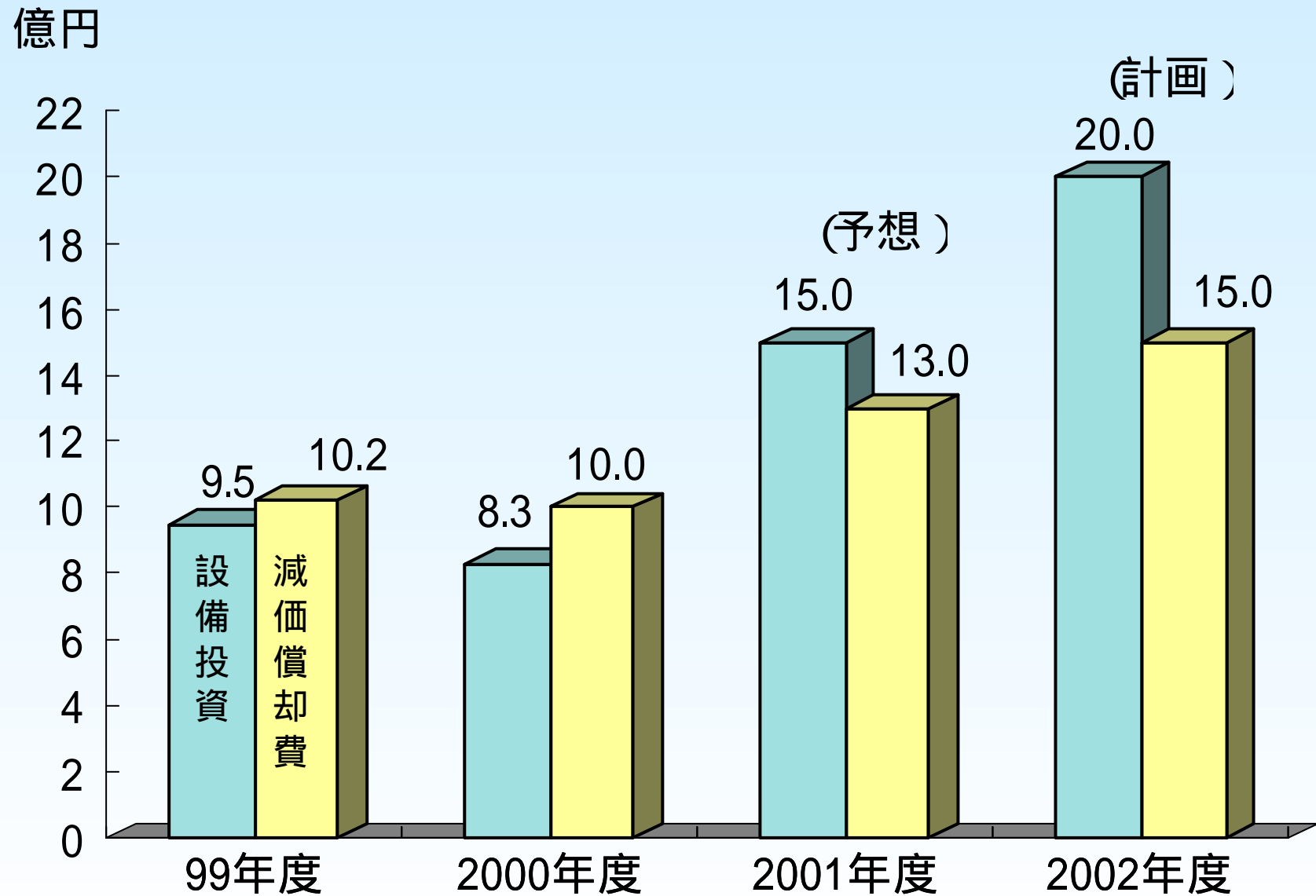
当期利益



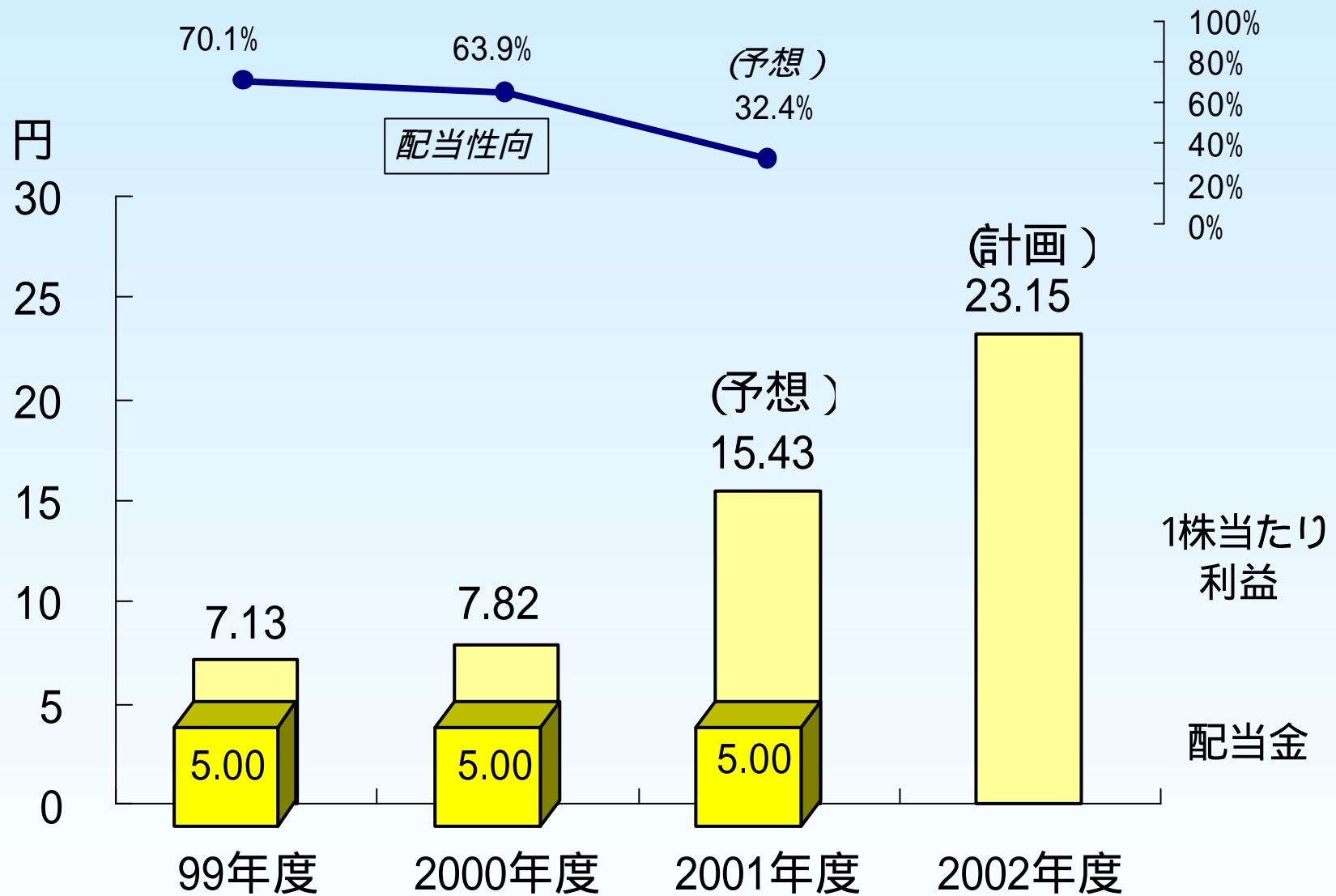
原価率と販管費率



設備投資と減価償却費



1株当たり利益と配当金

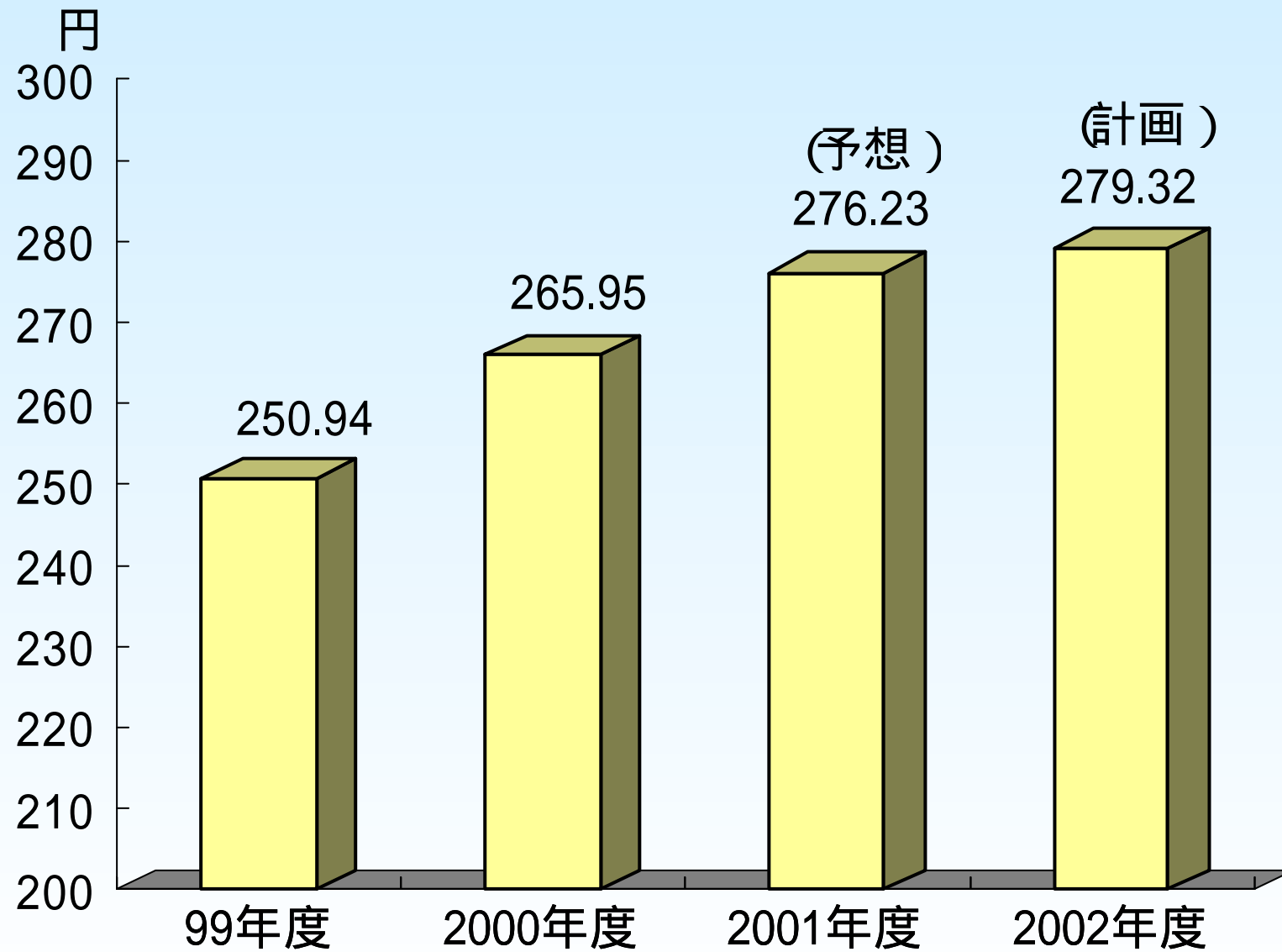


貸借対照表

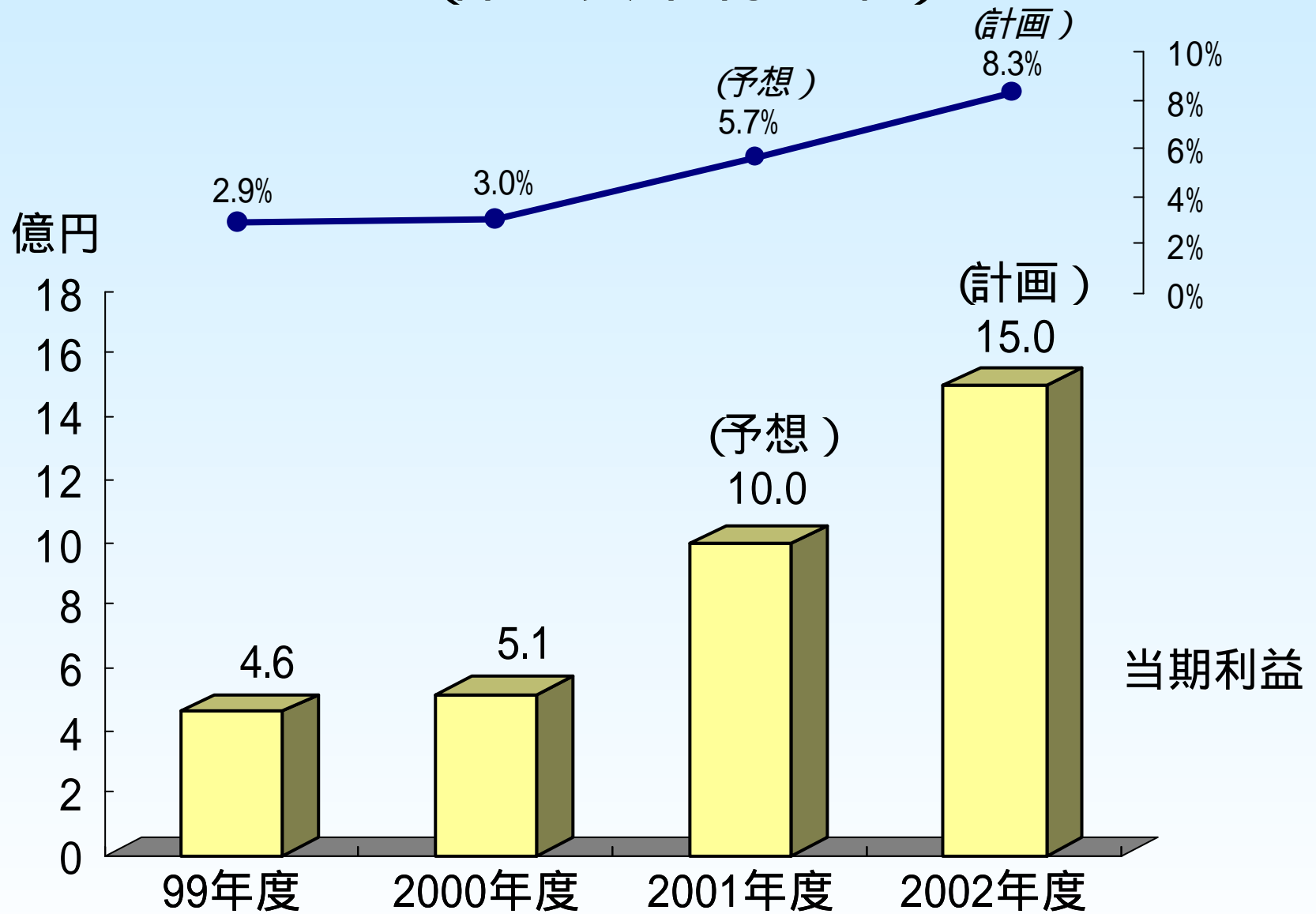
単位 : 億円

	2000年3月	2001年3月	2002年3月	2003年3月
流動資産	360	369	339	330
内売掛債権	139	144	110	100
内棚卸資産	148	134	120	100
固定資産	185	202	229	224
総資産	546	571	568	554
流動負債	309	312	294	286
固定負債	74	87	95	87
株主資本	163	172	179	181
株主資本比率	29.8%	30.2%	31.5%	32.7%

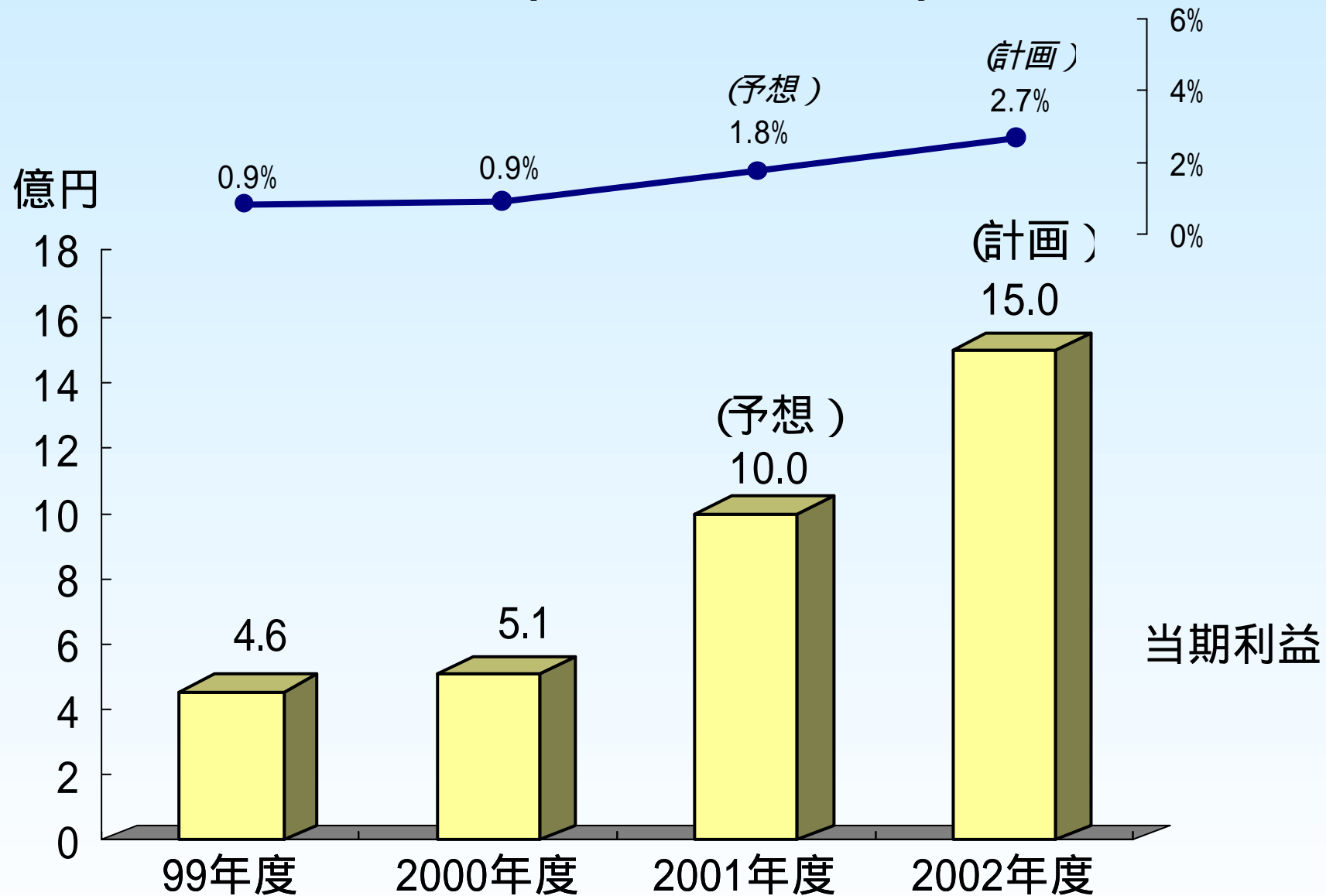
1株当たり株主資本



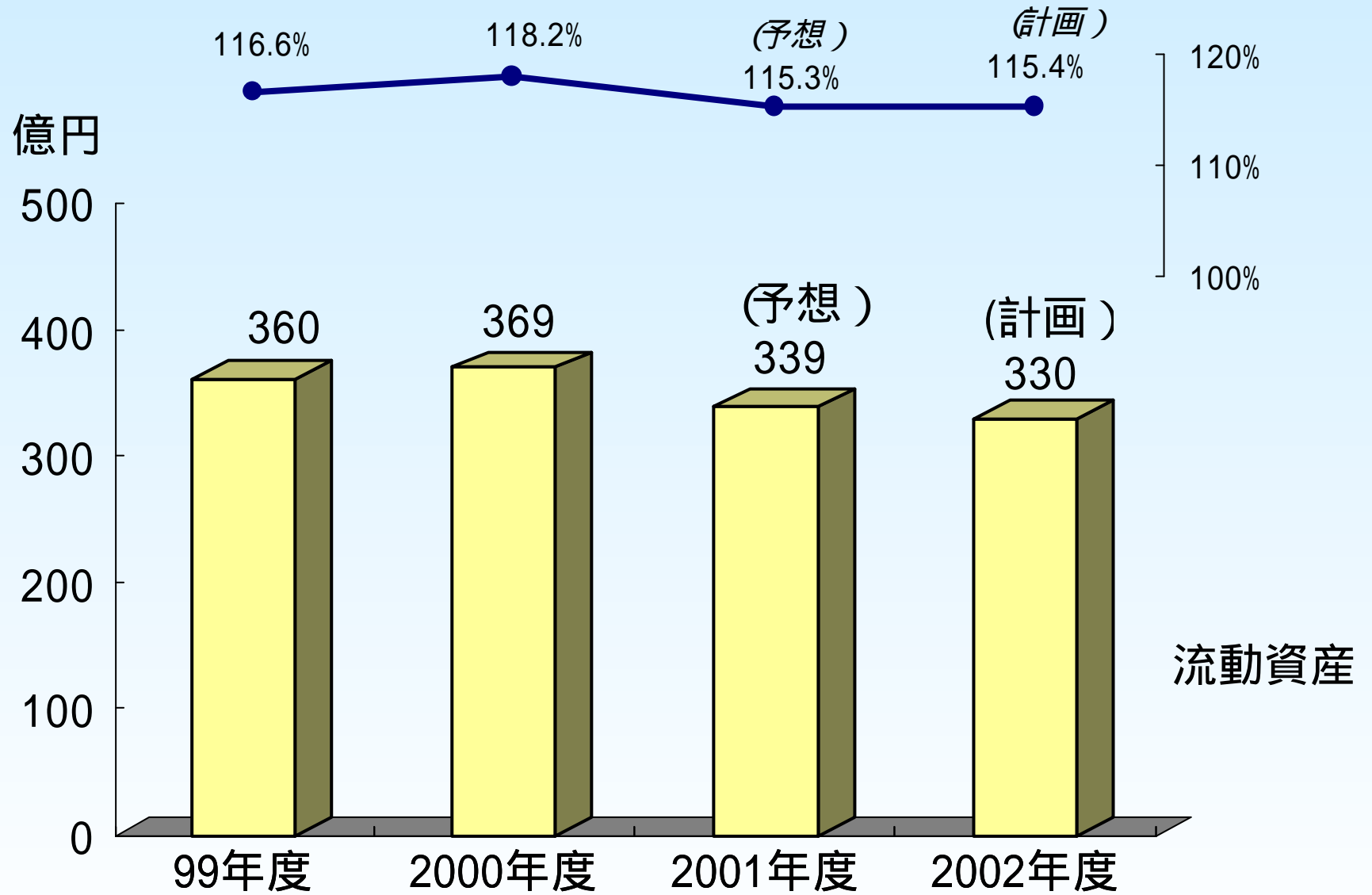
ROE (株主資本利益率)



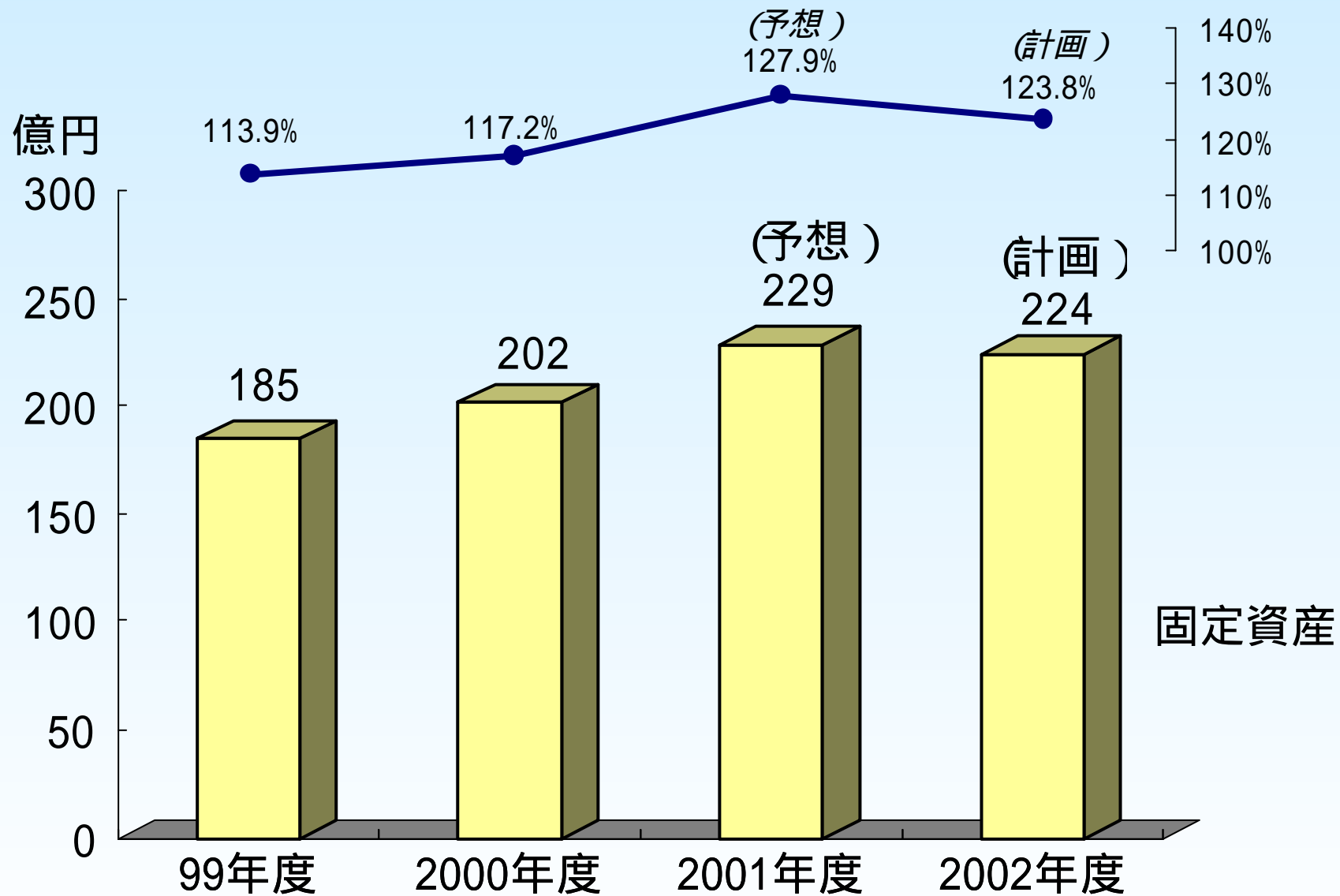
ROA (総資産利益率)



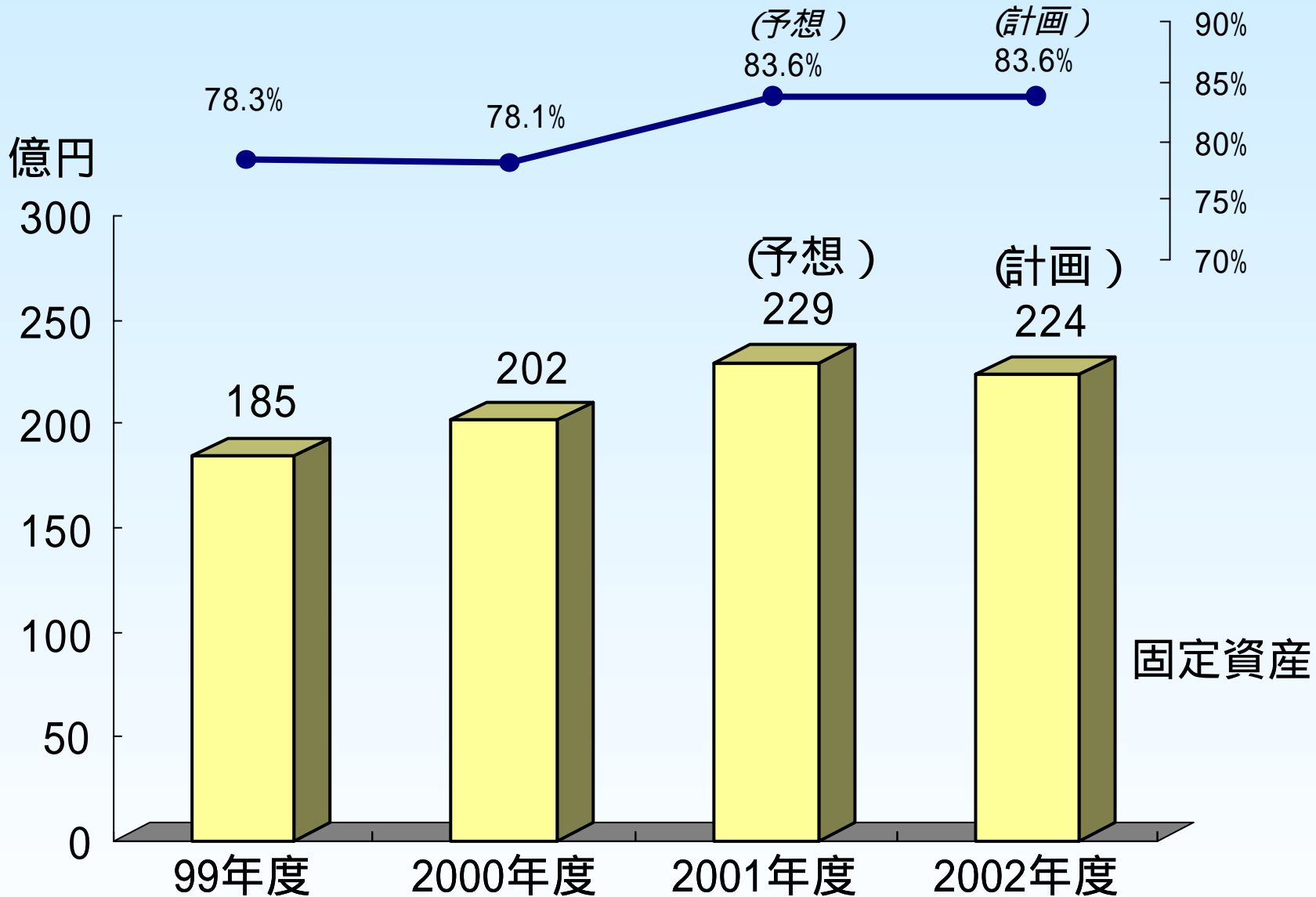
流動比率



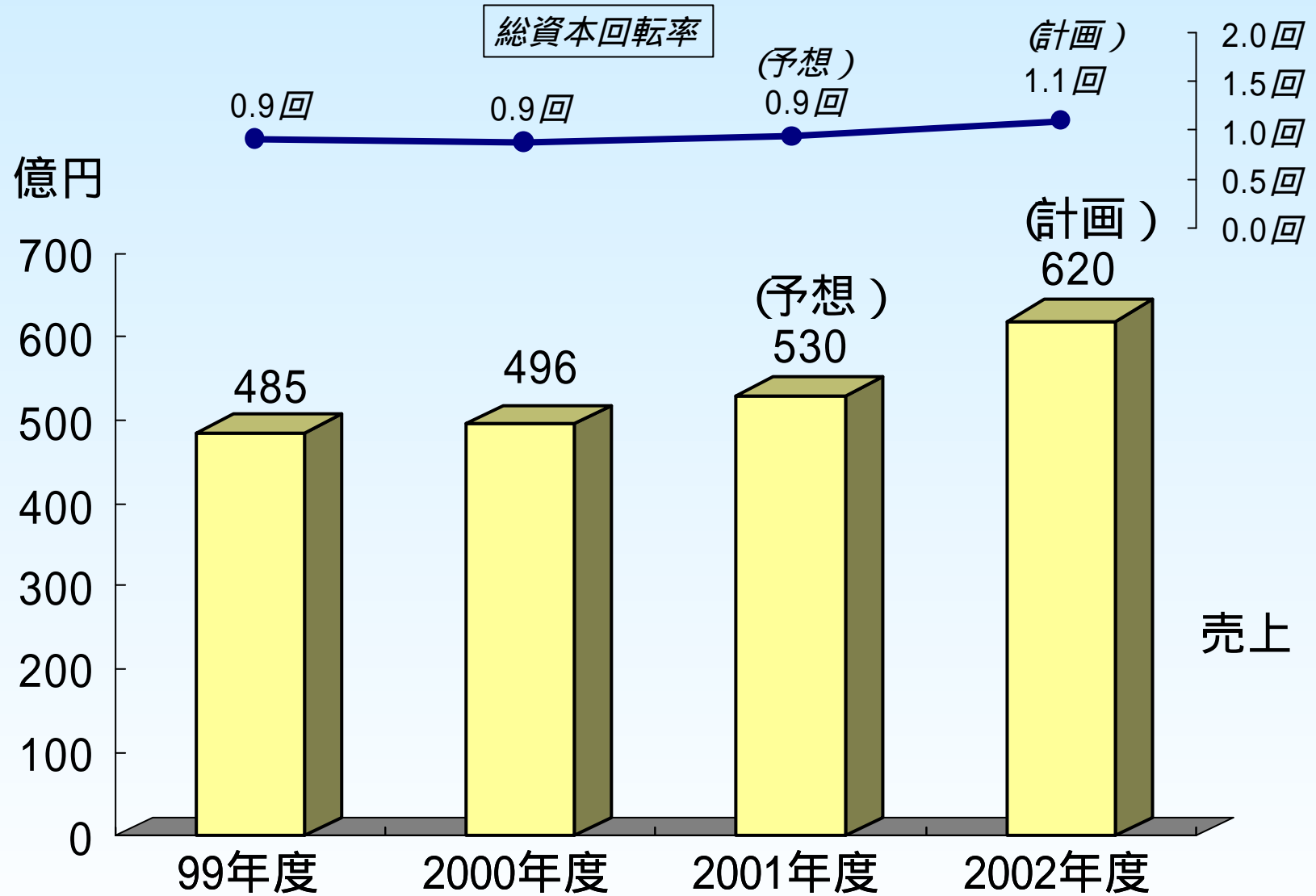
固定比率



固定長期適合率

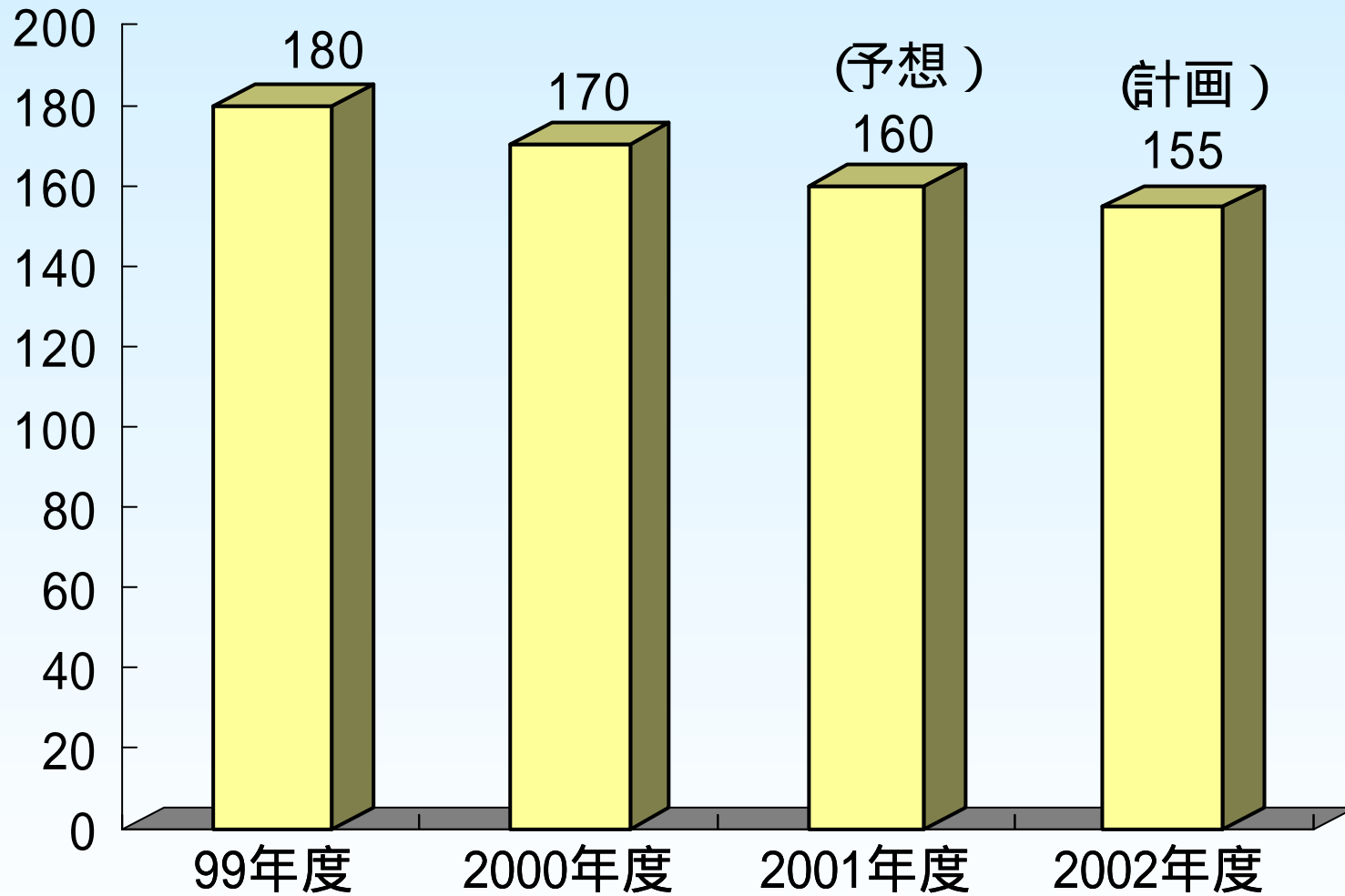


総資本回転率

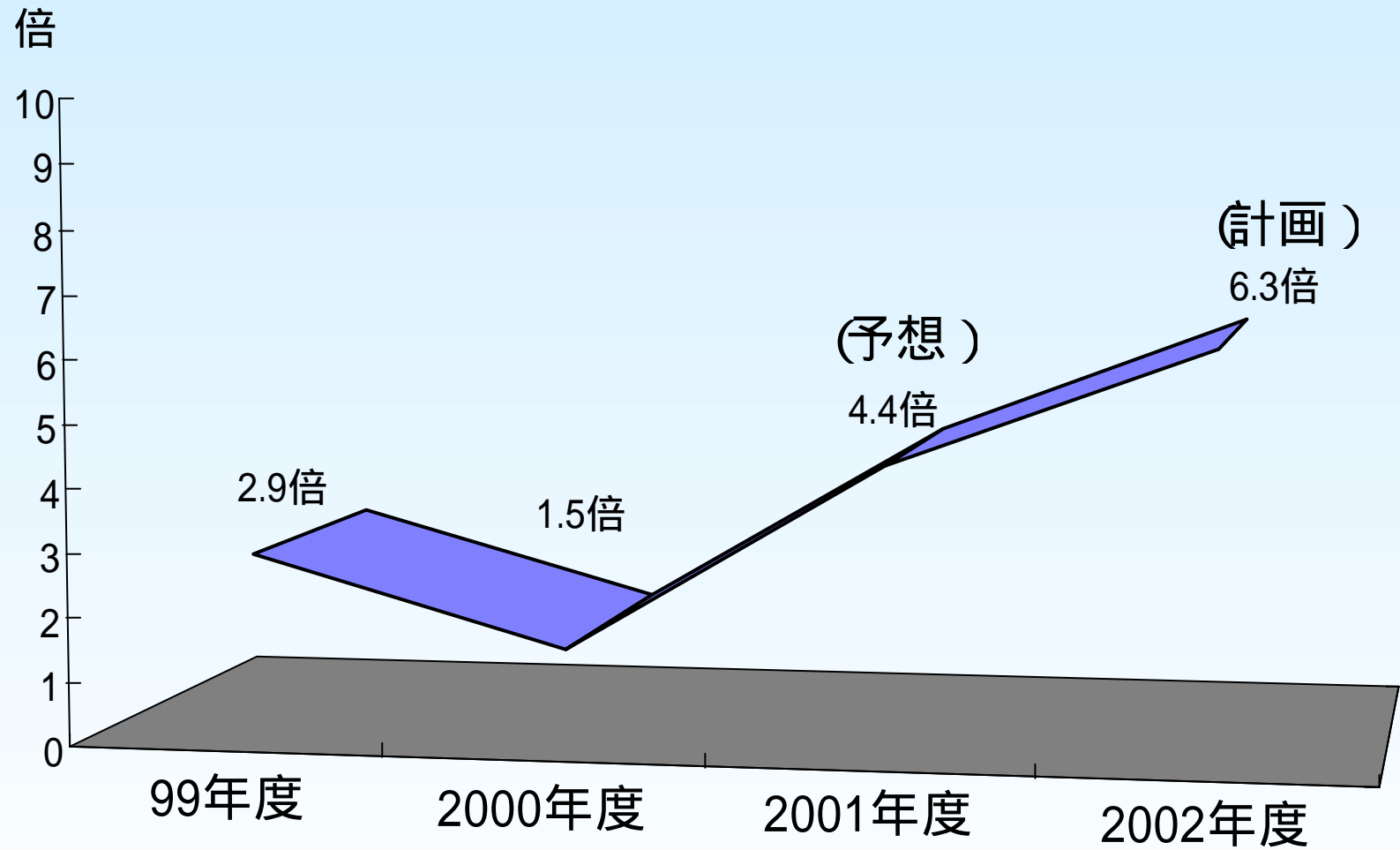


有利子負債

億円



インタレスト・カバレッジ・レシオ



今後の経営戦略

日本電子株式会社

取締役社長 江藤輝一

Bright Plan 1000

2003年度到達目標・連結重視

【連結売上】 1,000 億円

【連結経常利益】 50 億円

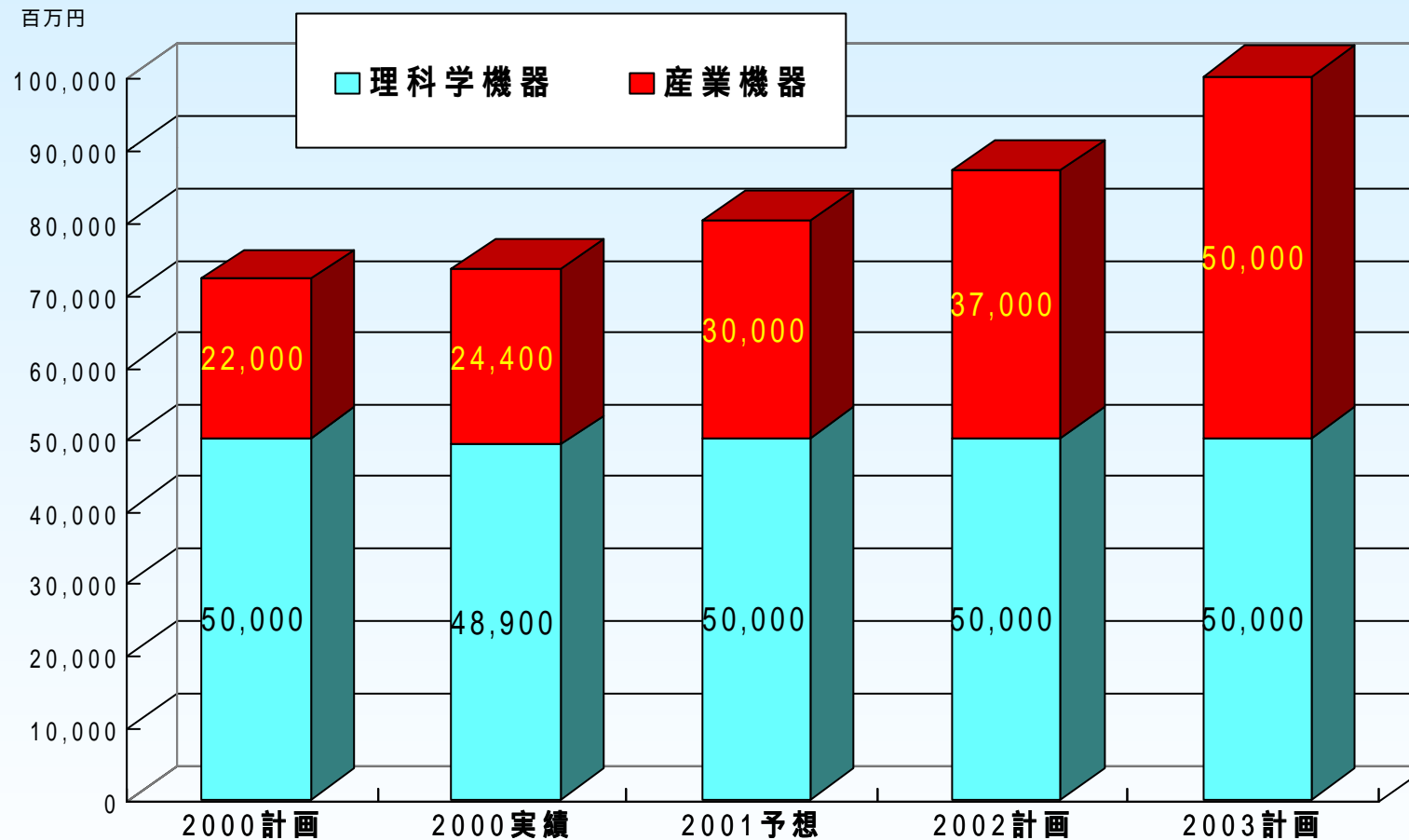
1000 億企業になるための8戦略

- (1)事業目標（**連結売上** 1,000億円 **連結経常利益** 50億円）
の達成
- (2)市場対応型事業展開の推進
- (3)1000 億販売サービス体制の構築
- (4)I-Core に向けた源流部門の改革
- (5)1000 億生産体制の構築と改革の完遂
- (6)ソリューション経営の推進
- (7)グローバルネットワークの構築
- (8)協業とアウトソーシングの推進

利益計画

	2000年度実績 (H12年度) 創立51年	2001年度予想 (H13年度) BP1000・初年度	2001当初計画 BP1000・初年度	2002年度計画 (H14年度) BP1000・2年度	2003年度計画 (H15年度) BP1000・3年度
					単位:百万円
【連結指標】					
連結売上高	73,315	80,000	77,000	87,000	100,000
(連単倍率)	(1.48)	(1.51)	(1.45)	(1.40)	(1.43)
連結経常利益	2,105	2,500	2,200	3,500	5,000
(連単倍率)	(1.38)	(1.25)	(1.10)	(1.17)	(1.25)
連結当期利益	818	1,200	1,200	1,800	2,400
(連単倍率)	(1.62)	(1.20)	(1.20)	(1.20)	(1.20)
株主資本	18,417	20,200	20,700	22,800	25,300
総資産額	84,602	78,200	74,300	76,000	77,600
株主資本比率	21.8%	25.8%	27.9%	30.0%	32.6%
株主資本利益率 (ROE)	4.5%	6.2%	5.8%	7.9%	9.5%

セグメント別売上計画



セグメントの内訳

セグメント	市場	主なユーザー
理科学機器 (S-Core)	科学研究	大学 研究・試験機関 企業研究所
産業機器 (I-Core)	半導体 光通信	フォトマスクメーカー デバイスメーカー 真空成膜機器メーカー
	医療 環境 バイオサイエンス	臨床検査センター 病院 分析センター 製薬会社

S-Core市場の動き()

【プラス要因】

第2期科学技術基本計画のスタート

2001年4月より5年間で24兆円投資

ナノテクノロジー-研究センターを10拠点新設

今年度のナノテク関連研究予算

『文部科学省:400億円』

『経済産業省:390億円』

S-Core市場の動き()

【マイナス要因】

行財政改革推進による大学・研究機関の
法人化、統廃合

研究テーマの多様化に伴い、多品種少量
生産に拍車

国際競争の激化に伴う販売価格の低下

第2期科学技術基本計画に 基づく戦略的重点化

重点4分野	関連するJEOL装置
ライフサイエンス	核磁気共鳴装置 極低温電子顕微鏡 生化学自動分析装置
情報通信	成膜装置用電子銃・電源 高密度イオンプレーティング装置
環境	質量分析計
ナノテク・材料	透過電子顕微鏡・走査電子顕微鏡 電子ビーム描画装置、ウェハプロセス評価装置 超微細加工評価装置

透過電子顕微鏡

特長

(分解能 0.19nm ~ 0.10nm)

物質内部の
原子の世界を直接観察
物質の組成分析、
構造・結合状態の
解析も実現



JEM-2010F

輝度が高い
電界放射形の
電子銃(FE-GUN)
を搭載

市場規模

JEOLシェア

市場トレンド・動向

世界：約230台

世界：約60%

- ・ナノテクノロジー、カーボンナノチューブ
- ・半導体市場の需要拡大
- ・機能性高分子材料研究
- ・ネットワークによる遠隔操作

フィールドエミッション走査電子顕微鏡

特長

- (分解能 1.0nm)
- 物質表面の微細な形態観察、元素分析、結晶方位解析。
- 試料処理機能の付加による充実



JSM-6700F



市場規模

世界 :約1000台

JEOLシェア

世界 :約50%

市場トレンド・動向

- 半導体市場の需要拡大
- ナノテクノロジーの需要拡大
- 機能性高分子材料の研究
- ネットワークによる遠隔操作
- パソコンによる簡易操作

電子顕微鏡の受注・売上

■ 透過電子顕微鏡

	99fy	00fy	01fy
受注	120台	90台	130台
売上	110台	110台	120台

■ フィールドエミッション走査電子顕微鏡

	99fy	00fy	01fy
受注	90台	160台	200台
売上	60台	120台	180台

■ 走査電子顕微鏡合計

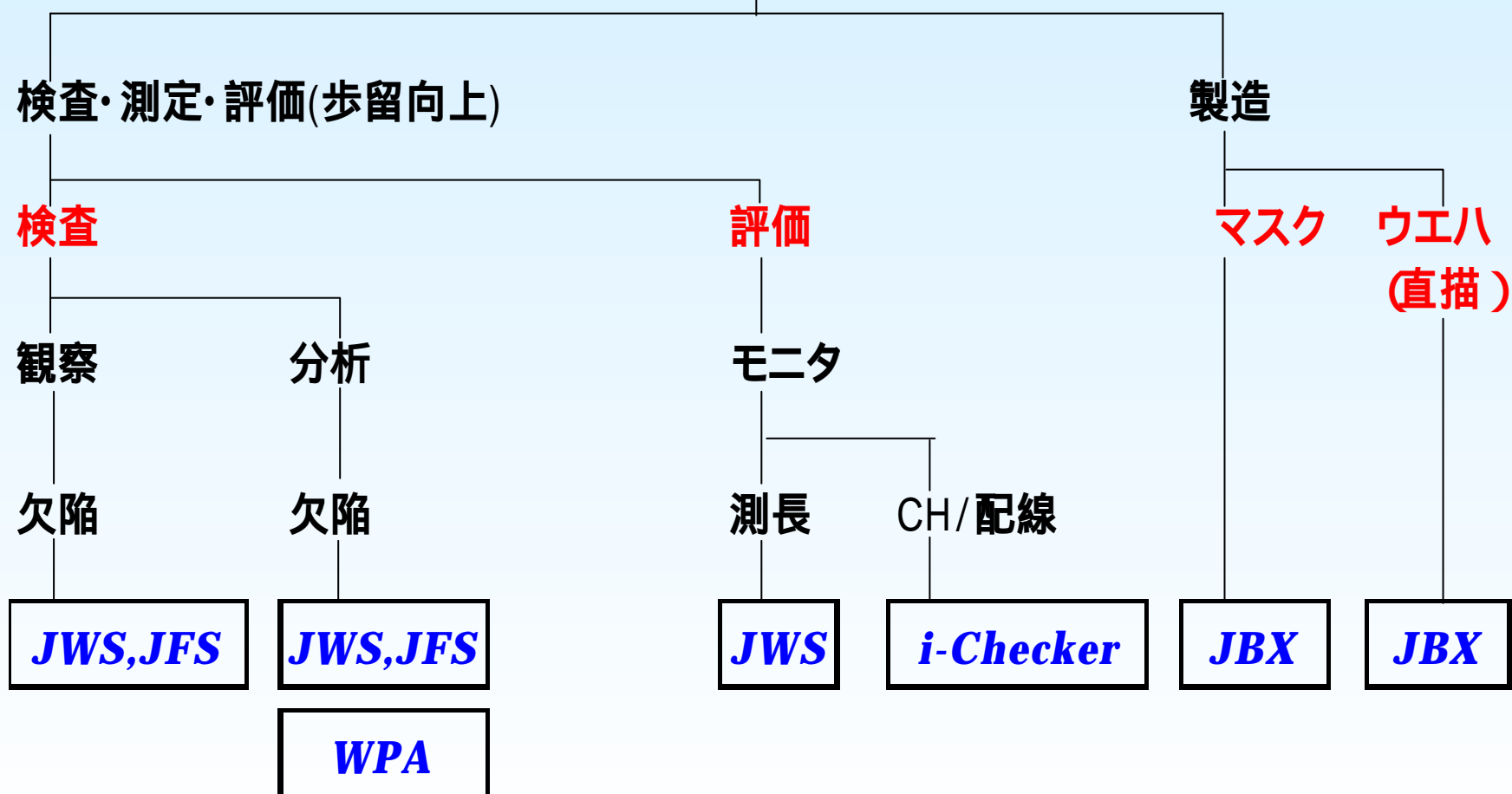
	99fy	00fy	01fy
受注	450台	530台	560台
売上	400台	500台	530台

I-Core市場の動き(1) 半導体製造装置

- **電子ビーム描画装置JBX-9000MVをはじめとするフォトマスク製造装置は、米国半導体業界が減速下にあるものの、次世代の先行投資が加速されて、引き合いは堅調。**
- **世界的なフォトマスクサプライヤーであるデュボン(DPI)への受注が高い評価を得ている。**
- **採算向上(歩留向上)のため、半導体評価用フィールドエミッション走査顕微鏡の需要も活発。**

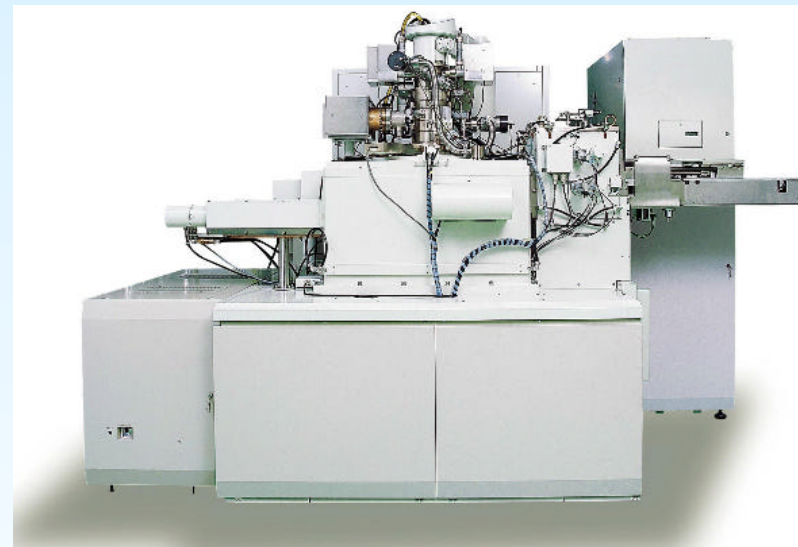
半導体関連装置事業の概要

JEOL半導体製造装置



マスク描画装置JBX-9000MV

- 使用目的
180nm ~ 130nmノード対応マスク生産機
- 特長
 - 可変成形ビーム
 - ベクタースキャン
 - ステップ & リピートステージ
 - 高加速電圧 (50kV)
 - 高解像度電子光学系
 - 125mm (5インチ)
 - ~ 230mm (9インチ)マスク描画
- マーケットサイズ 350億円
- JEOL目標シェア 50%
- 売価 1台当たり11 ~ 16億円



JBX-9000MV

半導体関連 JBX-9000MVの市場動向

	~ 99年度	00年度	01年度
受注	5台	5台	7台
売上	3台	4台	6台

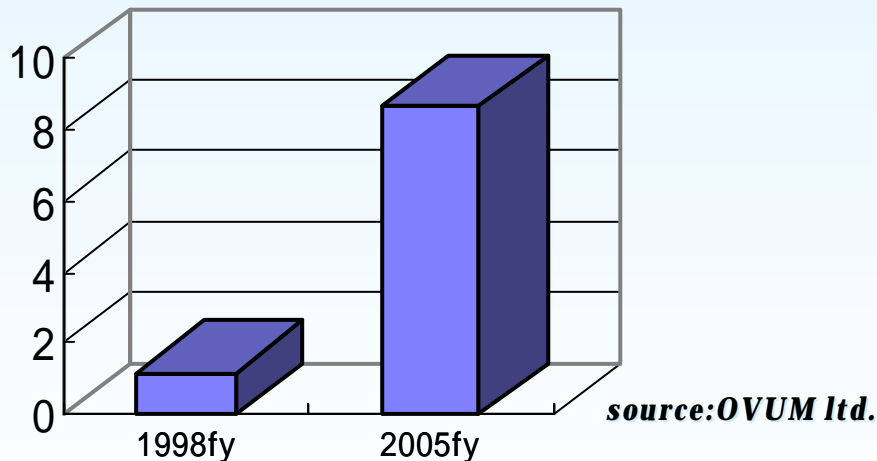
【今後】

- デザインルールへの対応:130 100 70 nm
- ワールドワイドのフォトマスクメーカー、デバイスメーカーとの連携によりシェアを**50%**に

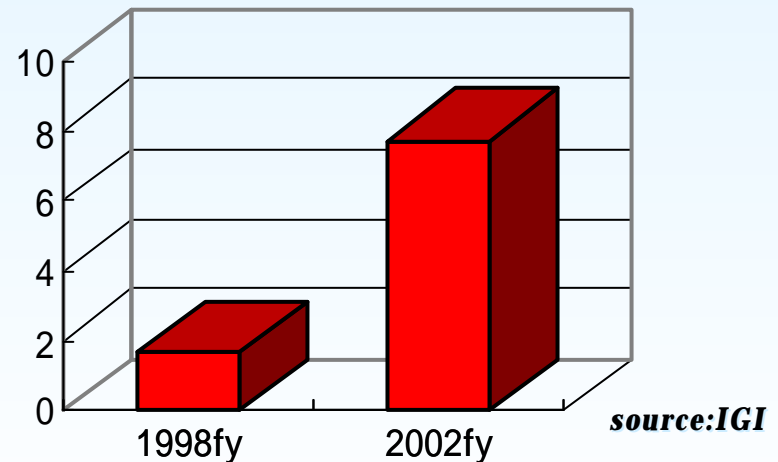
I-Core市場の動き(2) 光通信用薄膜

- WDM(波長分割多重)及びDWDM(高密度波長分割多重)市場は、北米で減速したが、長期的には成長性の高いことには変わりはない。
- 光通信用薄膜需要に応え、電子銃・電源の本格輸出により 前年実績は上回る予想。

WDM Global Market



DWDM Global Market



成膜を支える製品

【成膜用システムコンポ-ネント:JEIPシリーズ】

■ 光集積回路用素子

・主な用途:光ピックアップ(DVD,CD)

	~99年度	00年度	01年度
受注	11台	8台	12台
売上	3台	5台	12台



高密度イオンプレーティング装置

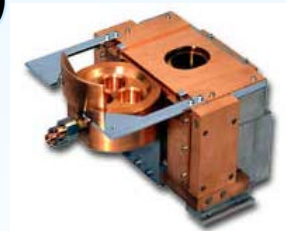
【成膜用電子銃シリーズ】

■ 光通信用素子 : 波長分散フィルタ(WDM, DWDM)

■ 表示用素子 : 液晶表示, 電磁波遮断

■ 照明用素子 : 液晶プロジェクター

■ 眼鏡用素子 : 反射防止膜・耐久&保護膜



薄膜用 電子銃・電源の売上動向

単位(百万円)

99年度売上	2,500
00年度売上	5,000
01年度予想	6,000

国内シェア	海外シェア
80%	10%

- WDM(波長多重分割)市場の活況による売上増加
- 将来的にDWDM(高密度波長多重分割)市場への対応を計っていく

I-Core市場の動き(3) 医用

- **生化学自動分析機器の国内市場は、医療費の抑制等により、厳しい価格競争の状況は変わらない。**
- **海外市場は堅調であり、今年度より米国に本格輸出を行う**
- **米国販売についても欧州同様Bayer社。**
- **上位機種(2250テスト/時)の海外市場投入**

生化学自動分析装置

特長

- ・血液中の生化学項目を
多項目・迅速に測定
- ・市場最高処理速度
ハイスループットの実現
- 試料・試薬の超微量化
- ・Bayer社へOEM供給

BioMajesty



市場規模 (小型～大型合計)
JEOLシェア(中型のみ)

世界 :約6000台、日本 :約1000台
世界 :約15%、日本 :約25%

(800～1800テスト/時クラス)

	98fy	99fy	00fy	01fy
国内売上(台)	80	110	80	100
海外売上(台)	80	120	180	220
計	160	230	260	320

I-Core市場の動き(4) 環境&バイオ

- バイオ分野では、タンパク質の解析ツールの一つとして“NMR(核磁気共鳴装置)”はますます注目されている。日本唯一のNMRメーカーとして、期待も非常に大きい。
- 環境分野では、第2期科学技術基本計画において、“化学物質・汚染物質の検出・測定”の必要性が高まっている。特に、ダイオキシン分析に必要な“MS(質量分析計)”の需要は継続している。
- 地球環境問題への関心が広まり、中国・東南アジアでも需要が高まっている。

核磁気共鳴装置

特長

- ・有機物質の構造解析、
医学研究、バイオや遺伝子等、
応用範囲が広い。
- ・ユーザー設定による多種多様の
自動測定が可能

JNM- ECPseries



市場規模 世界: 700台 日本: 130台
JEOLシェア 世界: 17% 日本: 58%

	99fy	00fy	01fy
受注	110台	120台	140台
売上	110台	120台	140台

市場トレンド・動向

・第2期科学技術基本計画及びポストゲノム
研究における主力解析ツールとして脚光
先端的な解析ツールとしての根強い需要
(蛋白質構造解析、バイオテクノロジー等)

質量分析計

特長(JMS 700D)

- 物質の極微量成分の特定と
その量を検出(ピコグラム単位で検出)
- ダイオキシン類の分析に必要不可欠
- ・長時間無人運転を実現

JMS-700D



市場規模(磁場型)

世界:約200台

日本:約130台

JEOLシェア(磁場型)

世界:約60%

日本:約85%

	99fy	00fy	01fy
受注	120台	120台	120台
売上	120台	120台	120台

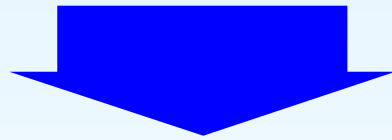
市場トレンド・動向

- ・第2期科学技術基本計画のスタート
- ・環境ホルモンの人体(血液・母乳)への影響の測定
- ・地球環境問題解決のための化学物質の検出・測定

生産改革の推進

【前提条件】

- Bright Plan1000では、2003年度に向けて、1.6倍の増産が必要
- 人員は、連結3,000人体制を維持



**3,000人のアワーレートに見合う高付加価値化
アウトソーシングの強力な推進
機動的な人員配置**

原価率改善

'99	'00	'01 (予想)	'02 (計画)
65.3%	65.8%	65.0%	63.6%

1. 競争力のある戦略商品の市場投入
2. I-Core製品の増加
3. 資材機能、生産機能を統合した数量効果によるコストダウン
4. アウトソーシングの推進

生産体制の整備・増強

■ クリーンルームの増設

- ・半導体事業拡大に向けた増設
- ・EBX用12室 + 3室 (6月～)

■ アウトソーシングの推進

- ・1000億生産体制に向けた外作増強
- ・地方企業への委託加工拡大
- ・海外生産の拡大

■ 生産スペースの整備・拡大

- ・内作工場の高付加価値化
- ・物流の簡素化、工期短縮

